

おきなわの
名木百選
ガイドブック

The Guide of Selected Famous Trees in Okinawa



おきなわの
名木百選
ガイドブック

The Guide of Selected Famous Trees in Okinawa

はじめに

沖縄県は、その地理的特性から学術的に極めて貴重な植物相を有しており、各地には歴史や文化の象徴として親しまれてきた樹木が数多く存在します。

これらは単なる巨樹・巨木に留まらず、環境の保全や美しい景観の形成において重要な役割を担っています。しかし、その貴重な財産を次世代へと引き継いでいくためには、私たち一人ひとりがその価値を正しく理解し、保護・保全の意識を持つことが欠かせません。

こうした背景から、県内各地の優れた樹木を市町村が認定し、普及啓発を図る取り組みが「おきなわの名木百選」です。

本書は、この認定を受けた名木たちの魅力を広く伝えるとともに、緑豊かな生活環境の確保、そして地域の活性化に寄与することを目的に編纂されました。本書を手には、沖縄が誇る生命の遺産を巡り、その奥深い物語に触れてみてください。

「おきなわの名木百選」認定の要件

1. 地域に親しまれている樹木
2. 地域に大切にされている樹木
3. 由緒のある樹木
4. 貴重又は稀少な樹木
5. その他、名木としてふさわしい樹木

CONTENTS もくじ

沖縄名木マップ..... P2

おきなわの名木百選

沖縄本島北部	P8
沖縄本島中部	P24
沖縄本島南部	P36
沖縄離島	P52

本書の見かた

個別の紹介ページでは、以下のアイコンや項目を用いて、その樹木の魅力を分かりやすく解説しています。

通し番号 エリアごとに001から順にナンバリングしています。



名護湾を望む国道58号線沿いにある瀬喜田小学校の校庭に生育する。両手を広げるように枝を伸ばし堂々としている。明治41年(1908年)に瀬喜田尋常小学校の4~5年生男子9名が、記念木として植えた。しかし、同年の台風で隣家の竹垣が倒れ根元から折れてしまったが、幸い新しい芽が出て今日の巨木へと成長した。センダンの幹は太く、全体的に南へ傾いているが、約3mの高さから枝は南に曲折し2つに分枝して、低く伸び美しい樹冠を保っている。当該樹木は児童生徒、卒業生の心のよりどころとなる他、区民に親しまれ大切にされてきた貴重な樹木である。

解説文

樹木の特徴や、地域で親しまれてきた由来・エピソードを紹介しています。

指定天然記念物マーク

国・県・市町村などの指定天然記念物である場合、その種別をマークで表示しています。

所在地

樹木が立っている場所の住所またはエリアです

所有者

樹木を管理・所有している自治体や団体名です。個人の場合は「個人」と表記しています。

認定年度

「名木」として正式に認定された年度です。

二次元コード

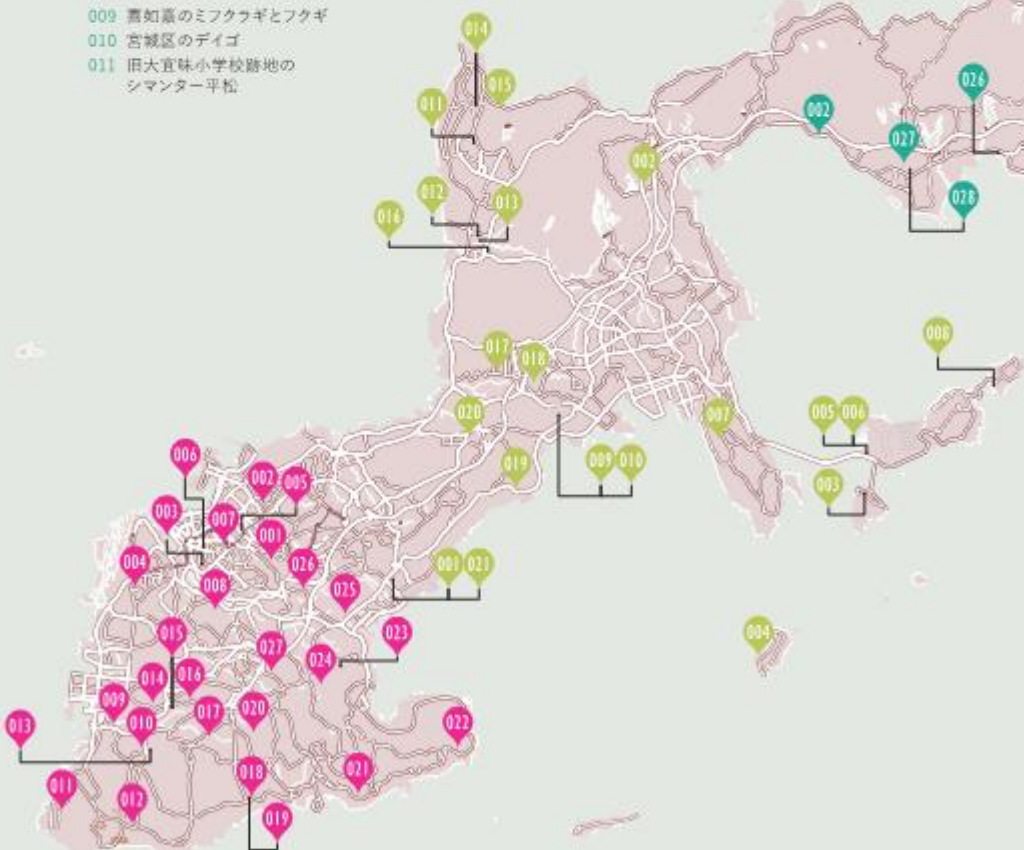
スマートフォン等で読み取ると、Googleマップで詳しい場所を確認できます。

【編集部より】

名木の中には、個人宅や学校、寺社仏閣の敷地内にあるものも含まれます。見学の際はマナーを守り、所有者や近隣の方へのご迷惑にならないよう十分ご配慮ください。

沖縄本島

- | | | | |
|------|------------------------|------|----------------------|
| 国頭村 | 001 伊部岳のオオウラジロガシ | 東村 | 012 サキシマスオウノキ |
| | 003 比地小玉森の大アカギ | | 013 シランキー (名前の知らない木) |
| | 004 奥間土帝君の大キリ | | シルギー、シラキー (樹皮が白い木) |
| | 005 辺戸の暮温松 | 今帰仁村 | 014 アカギ |
| | 006 辺土名小学校のセンダン | | 015 フバルシ |
| 金武町 | 002 伊豆のがじまる | | 016 天底小学校のガジュマル |
| | 027 観音寺のフクギ | 本部町 | 017 デイゴ |
| | 028 ガジュマル | | 018 備瀬のフクギ並木 |
| 大宜味村 | 007 上原のクワガ | | 019 浜元のアンマーフチュケル |
| | 008 塩屋のハスノハギリ | | |
| | 009 喜如嘉のミフクナギとフクギ | | |
| | 010 宮城地区のデイゴ | | |
| | 011 旧大宜味小学校跡地のシマムスター平松 | | |



- | | |
|------|--------------------------|
| 名護市 | 020 ひんぶんがじまる |
| | 021 東江のミフクラギ |
| | 022 真喜屋のサガリバナ群落 (舞臺花) |
| | 023 幸地河原ハーブ前のデイゴ (夫婦デイゴ) |
| | 024 瀬高田小学校のセンダン |
| | 025 安和小学校のガジュマル |
| 宜野座村 | 026 漢那のハスノハギリ |



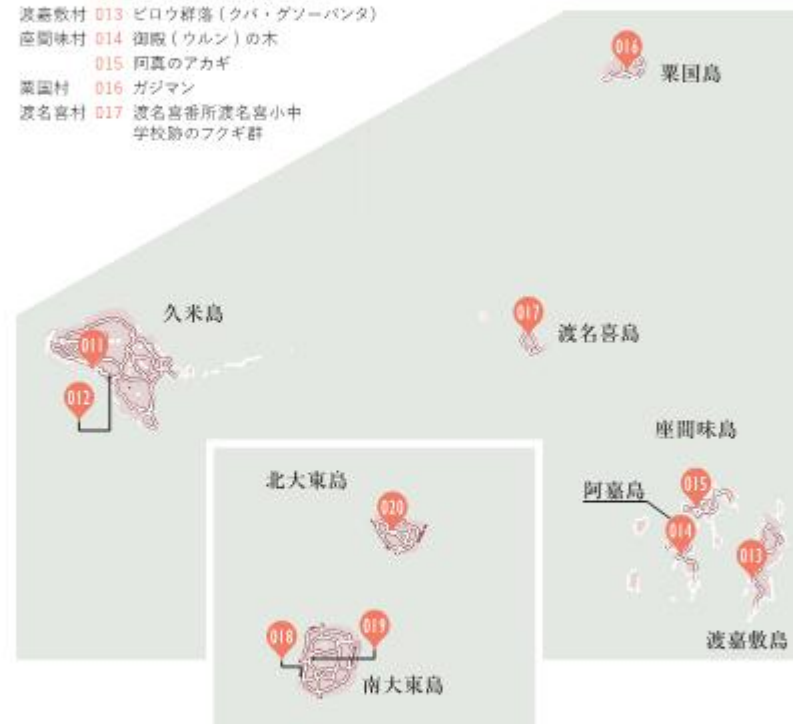
- | | |
|------|----------------------------------|
| 那覇市 | 001 首里金城の大アカギ |
| | 003 城岳のガジュマル |
| | 004 高良公園のガジュマル |
| | 005 トククリキワタ天野株 |
| | 006 ブーゲンビレア (那覇市松尾) |
| | 007 塩屋小学校のせんだんの木 |
| 浦添市 | 002 内間の大アカギ |
| 豊見城市 | 008 嘉数公民館のガジュマル |
| 糸満市 | 009 糸満小学校校庭ガジュマル (マンモス) |
| | 010 南山城址緑陰のガジュマル |
| | 011 ナカヌツンのデイゴ |
| | 012 デイゴ (シマクサラー) |
| | 013 夫婦ガジュマル |
| | 014 ガジュマル (仲屋シノスガガジュマル) |
| | 015 モモタマナ (アギーガーのクワディーサー) |
| 八重瀬町 | 016 当銘のガジュマル |
| | 017 世名城のガジュマル |
| | 018 具志原のフクギ並木 |
| | 019 具志原V字ガジュマル |
| | 020 後原の二本松 |
| 南城市 | 021 ビンギ |
| | 022 久手堅の大アカギ |
| | 023 ノロ殿内のガジュマル |
| | 024 照屋家のガジュマル |
| 与那原町 | 025 与那原公民館の大アカギ久葉堂赤木 (クワッドゥワアカギ) |
| 南風原町 | 026 大名ヒージャーガーのガジュマル |
| 宜野湾市 | 027 神里地区のガジュマル群 |

- | | |
|------|------------------------|
| 西原町 | 001 内間御殿のサワフジ |
| | 021 内間御殿のフクギ |
| うるま市 | 002 クーガー (ウプガー) のガジュマル |
| | 003 ガジュマル |
| | 004 津堅小中学校のクワノハエノキ |
| | 005 シメグモのクワディーサー |
| | 006 シメグモのデイゴ (南) |
| | 007 アシビナーのアコウ |
| | 008 クルアクギー |
| 沖縄市 | 009 上段 (イードン) のガジュマル |
| | 010 上段 (イードン) のデイゴ |
| 読谷村 | 011 アシビナーのガジュマル |
| | 012 旧古堅国民学校跡のデイゴ |
| | 013 古堅ウガンのフクギ |
| | 014 渡慶次小学校のガジュマル |
| | 015 長浜のフクギ |
| 嘉手納町 | 016 宇嘉手納祥所の大ガジュマル |
| 北谷町 | 017 ガジュマル |
| 北中城村 | 018 西仲松の大アカギ |
| 中城村 | 019 泊の大クワディーサー |
| 宜野湾市 | 020 普天間高校のパンノキ |

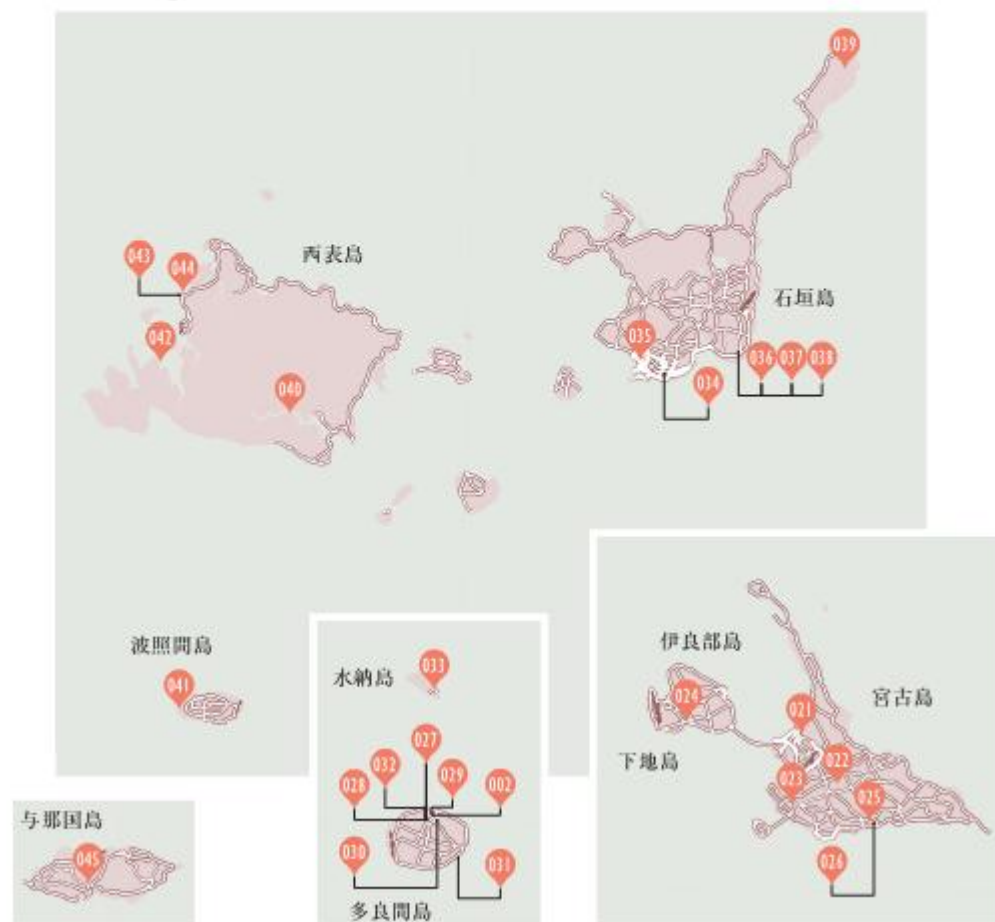
離島

- 伊平屋村 001 念頭平松
 多良間村 002 嶺間御嶽のアカギ
 027 土原井所のあかぎ
 028 しゅれー井所のあかぎ
 029 運城御嶽のふくぎ
 030 びとうまた井所のふくぎ
 031 普天間御嶽のやろう
 032 ういねーつづのフクギ
 033 水納御嶽のフクギ
 伊江村 003 タブノキ
 004 ニーバンガズィマール
 005 ガジュマル
 006 フクギ

- 伊是名村 007 伊是名小学校のガジュマル
 008 仲田みやらびの遊びどころ
 009 ガジュマル
 010 仲田はんたもうのガジュマル並木
 久米島町 011 兼城のクワディーサー
 012 僊間志良堂蔵のコバティシ
 波嘉敷村 013 ビロウ群落（クバ・グゾーパンタ）
 座間味村 014 御殿（ウルン）の木
 015 阿真のアカギ
 栗国村 016 ガジマン
 渡名喜村 017 渡名喜番所渡名喜小中学校跡のフクギ群



- 南大東村 018 塩屋の松並木
 019 大東神社のビロウ群落
 北大東村 020 中野のビロウ林
 宮古島市 021 あばらぎのガジュマル
 022 カアニザ御嶽のリュウキュウマツ
 023 真中屋御嶽のアコウ
 024 ヤソルブソガイ ギー
 025 砂川神社のイスノキ
 026 友利のバスノハギリ
 石垣市 034 仲道の三番アコウ
 035 真乙地（まいつば）御嶽のオオバアコウ
 036 白保小学校のオオバアコウ
 037 白保小学校のガジュマル
 038 白保小学校のデイゴ
 039 平久保のヤエヤマシタン
 竹富町 040 仲間川のサキシマスオウノキ
 041 波照間島毛原崎のハマシタン
 042 カマドマのクバデサ
 043 タブの老木
 044 西表中学校のセンダン
 与那国町 045 ドゥナンタギのオオバアコウ



緑の記憶をたどる旅へ

沖縄には、風をまとい、光をあつめて
生きてきた樹々があります。

島々の歴史を見守り、祈りの場をつくり、
人びとの暮らしに寄り添ってきた名木たち。

亜熱帯の気候に育まれ、時に戦禍や災害を乗り越えながらも、
その姿を今に伝える樹木は、地域の誇りであり、文化の証です。

それぞれの土地で大切に守られてきた一本一本が、
風景となり、記憶となり、心の拠りどころとなっています。

本書では、県内各地の選りすぐりの名木を
「北部」「中部」「南部」「離島」の4つのエリアに分けて紹介します。

その根に、枝に、葉に宿る物語を感じながら、
自然と人のつながりに想いをはせる旅へと、どうぞお出かけください。

北部

Northern

Okinawa Main Island

国頭村／大宜味村／東村／
今帰仁村／本部町／名護市／
宜野座村／金武町

Kunigami Village
Ōgimi Village
Higashi Village
Nakijin Village

Motobu Town
Nago City
Ginoza Village
Kin Town

The Guide of
Selected Famous Trees
in Okinawa

001

いぶだけのおおうらじろがし

伊部岳のおオウラジロガシ

樹種／オキナワウラジロガシ 国頭村安田 国頭村 国平成19年度

樹高 幹周 推定樹齢

22m 6m 300年



当樹木は伊部岳中腹部(国頭村有林)に生育し、県道70号線安田を入口とする登山道を約3km進んだところにある。首里城築城時代の献木にまつわる「国頭サバクイ」の歌にある築城材として利用された木の生き残りとの言い伝えがある。

※国頭サバクイ…くんじゃんさばく。沖縄を代表する木遣り歌。サバクイとは地方役人の役職名。首里城の造営・改築の際、国頭間切奥間後方のナ

ゴー山で伐採した木材を運搬するときに歌った。琉球王国時代、国頭のカシの木は王府への貴重な献木であり、木を運ぶときの役人の心意気を歌ったものと言われる。

002 いげいのがじまる 伊芸のがじまる

樹種/ガジュマル ↑金武町伊芸33 自治会 国平成17年度

樹高 幹周 推定樹齢

11m 4m 300年

町
指定天然
記念物

金武町伊芸区の集落のほぼ中央、旧伊芸区事務所跡にガジュマルの巨木がある。同地は伊芸遺跡の分布地でもあり、かつては神サギ（神アサギ）があった。戦前まで拝所のひとつで、旧盆などには村のノ口達が神酒を造り、村中の人々に配って飲ませていた。町内の成熟木の中でも樹齢300年と言われる稀な名木で、「フンシー（風水）ガジュマル」と呼ばれている。この木の下で村芝居や綱

引きなどの行事が行われており、区民の憩いの場となっている。

003 ひじこだまむいのおおあかぎ 比地小玉森の大アカギ

樹種/アカギ ↑国頭村比地49 自治会 国平成14年度

樹高 幹周 推定樹齢

16m 5.2m 400年

県
指定天然
記念物

この大アカギは、比地集落の後方に位置する標高40mの小高い丘の上にあり、琉球由来記に「小玉森」と記され、地元では「アサギ森」とも呼ばれている。旧暦7月の海神（ウンジャミ）祭などの重要な年中行事が行われる神聖な場所である。小玉森には、このアカギの巨木を含め、ホルトノキやタブノキなどの高木が生育し、一帯は「比地小玉森の植物群落」として、県の天然記念物に指定されている。小玉森は古くから拝所の役割をし、村民が聖域として大切に保護してきた森であり、人々の暮らしと結びついた里山林として貴重なものである。

※当区域は、拝所となっており、現地保全のため、立入については、ご遠慮頂いております。

004 おくまーちーくーのおおきり 奥間土帝君の大キリ

樹種/リュウキュウハリギリ ↑国頭村奥間1816-1 自治会 国平成15年度

樹高 14m 幹周 2.2m 推定樹齢 150年



旧国頭村役場跡の山手に「土帝君」の村社があり、ここで地元の人は農林漁業の豊穡を祈願し、大キリは拝所の神木的存在として大切にされている。樹高は14m、幹周り2.2mもあり、同種にあっては最大級であると推察される。幹と太さを等しくする枝は低位置から水平に分岐し、支柱に支えられながらも枝条を展開している。

※土帝君…中国の土地神の一つで、その源は3世紀頃と考えられている。村落の守護神、豊年満作祈願の対象とされ、主に影像（石製、陶製、木製など）として祠に奉納されている。

005 へどのさいおんまつ
辺戸の蔡温松

樹種/リュウキュウマツ群落 ↑国頭村辺戸 国頭村 国平成17年度



樹高 19m 幹周 4m 推定樹齢 150~300年

蔡温(1682~1761)は、三司官(今でいう大臣で3人制)を25年も勤め、薩摩侵攻により疲弊した琉球において農業技術の改良や、植林を奨励して改革を押し進め、農林漁業に多くの業績を残した人物である。現在、辺戸地区で蔡温松と呼ばれている松群落は、その頃に植栽されたと思われ、樹齢300年という説や、現存するものは2世から3世で樹齢150年という説もある。当群落は、樹高19mのものを筆頭に15本、辺戸集落の東から北側に位置する道路沿いに生育し、地域のシンボルとして村民から愛され、健全に保護されている。周囲には散策路や展望台も整備されている。

006 へんとしょうがっこうのせんだん
辺土名小学校のセンダン

樹種/センダン ↑国頭村辺土名112 国頭村 国平成24年度



樹高 幹周 推定樹齢

9m 3.25m 110年

当該樹木は、国頭村の辺土名小学校の東校舎中央中庭に生育する。両手を広げるように枝を伸ばし、青々と繁っている。4月初旬の入学式の頃から、香ばしい香りの薄紫の花が満開に咲き誇る。明治38年(1905年)日露戦争後の頃凱旋記念木として植えられた。当時は5本植えられたが、校舎建築等で撤去され現存し

ているのは1本のみとなる。また、地面約50センチ上の幹には、第二次世界大戦時の米軍機グラマンの機銃攻撃を受けた弾痕があり、明治・大正・昭和の激動期の生き証人でもある。センダンの幹は太く、枝は左右に大きく広がり、学校のシンボルとして、児童生徒・地域の方々に親しまれ、大切にされている樹木である。

007 うえはらのくわーぎ
上原のクワーギ

樹種/シマグワ ↑大宜味村上原57 個人 国平成15年度



樹高 幹周 推定樹齢

9m 2m 100年

上原集落の住宅敷地の屋敷林として生育しており、地域から「上原のクワーギ」の愛称で親しまれている。シマグワは養蚕の餌木として古くから家庭で植栽されていたが、現在ではその名残として時折散見される程度で、それほど大きくはない。しかし、この木はシマグワとしては珍しく太く、大きい。保

全対策として、現在は樹木周辺に柵が設けられている(大宜味村役場が設置)。

008 しおやのはすのはぎり
塩屋のハスノハギリ

樹種/ハスノハギリ ↑大宜味村塩屋594 個人 国平成16年度



樹高 幹周 推定樹齢

11m 5.7m 300年

樹齢300年と言われる当樹木は、塩屋区の共同墓地の入口にあり、共同墓地建造時からすでに生育していたと考えられている。樹高11m、幹周り6m弱で枝を四方に張り出し、根元で2本の樹木が接合している。かつて、土葬の習慣があった頃、塩屋区の女性達は当樹木の下で洗骨を行った。土葬の習慣がなくなった今では、共同墓地組合の人々の憩いの場となっている。先の大戦でほとんど全焼してしまった塩屋区であるが、戦火を免れ、時代の変遷を見守ってきた貴重な古木である。



009

きじょかのみふくらぎとふくぎ

喜如嘉のミフクラギとフクギ

樹種／オキナフキョウチクトウとフクギ 大宜味村喜如嘉 国 国平成17年度 樹高 6m 幹周 1.3m 推定樹齢 75年



沖縄本島の西海岸を走る国道58号線沿い、辺土名高等学校から喜如嘉区に生育する。仲良く寄り添うように立っているミフクラギとフクギは、目印としての標示木にもなり、県指定天然記念物である喜如嘉の板干瀬(いたびし)を背にした風物でもある。地域では「共立ちの木」と呼ばれ親しまれている。

※板干瀬・・・いたびし。熱帯から亜熱帯のサンゴ礁海岸に見られるビーチロックと呼ばれる岩で、昔の砂浜にあった砂粒が炭酸カルシウムで固められ、厚さ6～30mの板状の岩が何枚にも重なりあったもの。



樹高 幹周 推定樹齢

010

みやぎくのでいご

宮城区のデイゴ

樹種／デイゴ 大宜味村宮城 大宜味村 国平成23年度

樹高 5m 幹周 2.1m 推定樹齢 27年



当該樹木は、大宜味村の「赤橋」と呼ばれ有名な塩屋大橋の架かる宮城島に生育する。大宜味村営宮城団地の完成後の昭和58年に、同用地駐車場内に挿木で植栽され、現在では樹高5.0m、幹周2.1mに生長し、地上80cmから分岐し三方に枝を拡げており、枝張り15mと均整のとれた樹形となっている。デイゴの開花は沖縄の「うりずん」の到来を告げる風物であるが、当該デイゴも開花期には枝々に深紅の花を満開に咲かせることから地域や県民からの認知度も高く、また、国道58号沿いに生育することから、花の時期には多くの人々が訪れている。容姿綺麗なデイゴは、風景写真や記念撮影、風景画の被写体としても有名である。



011

きゅうおおきみしょうがっこうあとのしまんたーひらまつ

旧大宜味小学校跡地のシマンター平松

樹種／リュウグウノツバ 大宜味村字大宜味1 大宜味村 国令和2年度

樹高 8m 幹周 3.4m 推定樹齢 150年



当該樹木は沖縄戦を乗り越え、大宜味小学校の児童と共に成長してきた大木である。閉校となった現在も、旧大宜味小学校跡地のシンボルとして、地域住民から親しまれ大切にされている。聞き取り調査によると、大宜味小学校開校時には既に存在していた。シマンターとは当該木所在地の小学名(島田)の呼び方である。



さきしますおうのき

012

サキシマスオウノキ

樹種／サキシマスオウノキ 東村川田261 東村 国平成14年度

樹高 18m 幹周 2.9m 推定樹齢 100~150年



サキシマスオウノキは、ヒルギなどのマングローブと共に、熱帯から亜熱帯にかけての河口付近の湿地帯に生育する樹木である。地上部の根が板状となる「板根」を形成するのがこの木の特徴である。地上の板根で大きな樹幹を支えている。このサキシマスオウノキが生育する場所は小さな水流がある湿地帯で、かつては福地川の一部であったと考えられる。また、この地は神聖な場所でもあるが、観光客など人の出入りも多い(案内板も設置されている)。地上1mから生ずる大小約15枚の板根は見事な形で、同種の中では沖縄本島で最大の大きさであると思われる。



013 しらんぎー、しるぎー、さらきー
シランキー(名前の知らない木)シルギー、シラキー(樹皮が白い木)
 樹種/オガタノキ ▶東村有銘29-1 自治会 国平成18年度



樹高 15m 幹周 3.2m 推定樹齢 200年

有銘集落のウガン(拝所背後の神山)の傾斜地に生育し、集落の守り木、シンボルとして区民に崇められ大切にされている。周辺には高木が立ち並んでいるため、地元住民以外に知られたのはごく最近である。オガタノキは「招霊(おきたま)の木」が転じたともいわれ、日本では古くから神社によく植えられる。九州中南部から奄美・徳之島・沖縄・石垣・西表・与那国島の各島に分布する日本固有種である。身近な貨幣である1円玉の裏の絵柄としても使われている。

014 あかぎ
アカギ
 樹種/アカギ ▶今帰仁村与那嶺119 自治会 国平成15年度



当アカギは与那嶺構造改善センター前にある農村広場の傍らに生育する。広場では連日ゲートボールやグランドゴルフが行われており、緑陰の下は区民の安らぎの場、子ども達の遊び場として老若男女に親しまれている。地域の人によると、このアカギの容姿は幼少の頃から変わらず、今日に至るま

で地域のシンボルとして讃えられている。樹高15m、幹周6mの巨木であり、広場とキビ畑の間で広々と展開している。おとな数人でやっと抱えられる幹は太く、その迫力を見る者を圧倒し、幹表面の巨大なコブには自然の力強さを感じることができる。

015 ふばるし
フバルシ
 樹種/コバテイシ ▶今帰仁村今泊3117 自治会 国平成15年度

樹高 幹周 推定樹齢

18m 4.5m 400年



今泊公民館前に生育しており、前面の道路は元馬場で、古くは競馬が行われ、緑陰の元に人々が集まり、憩いの場となっていた他、豊年祭が行われるなど、字の重要行事が行われ、地域から親しまれてきた。戦前は当樹木の根元に接して大きく傾くもう1本のコバテイシが立っており、これを「ウー(雄)

フバルシ」、現存するものを「ミー(雌)フバルシ」と呼んでいた。当樹木は同種の中では最大のものと推定されている。また、この木に掛けて次の歌が歌われている。「親泊のくふあでさや 枝持ちのちゅうらしさやわやくみの妻の 身持ち美らしさや」

016 あめそこしょうがっこうのがじゅまる
天底小学校のガジュマル
 樹種/ガジュマル ▶今帰仁村天底420 自治会 国平成18年度

樹高 幹周 推定樹齢

13m 10m 160年



天底小学校の校庭にあり、悠々と広がる大木で、学校の象徴として在校生・卒業生から親しまれている。明治38年(1905年)頃に移植されたと言われ、100年以上も天底小学校の児童を見守ってきた。大きく広く繁茂した枝葉がつくり出す緑陰は、子ども達の絶好の遊び場になっている。

017 **デイゴ**
樹種/デイゴ ▶本部町辺名地52 自治会 国平成15年度

樹高 幹周 推定樹齢
13m 5m 200年



辺名地公民館の隣にある辺名地神社の一角に生育しており、当地は昔から区民の憩いと安らぎの場として利用され、当デイゴは地域から親しまれている。この神社は区民の健康祈願や干ばつ時の雨乞いなどを行う拝所となっており、この木も区民を守る神様、子どもを授かる神様として神木視さ

れ、人々に拝まれている。また、幹周りは5mと太く、枝葉は四方八方に広がり、大きな緑陰をつくり出す姿はひとつの森に見えるほどであり、区民のシンボリックな樹木である。

018 **備瀬のフクギ並木**
樹種/フクギ並木 ▶本部町備瀬453 自治会 国平成18年度

樹高 幹周 推定樹齢
19m 2.45m 300年



かつて沖縄では、まっすぐに育つことや、葉がびしりと茂り幹が丈夫なことから集落を台風や海風から守る防風林として各地にフクギが植えられていた。また、樹皮は沖縄の着物に欠かせない黄色の染料の材料としても使われている。本部半島にある備瀬集落に広がる当フクギ並木は沖縄本島では最大規模を誇り、集落全体のあらゆる道に、樹齢300年の木々が隙間なく立ち並んでいる。その数は数千本に及ぶと言われ、深緑に包まれた備瀬の集落を歩いていると、昔の沖縄にタイムスリップしたような錯覚さえ起こさせる。近年はマスコミなどにより当群落が有名になり、県内外から多くの観光客が訪れている。

019 **浜元のアンマーフチュクル**
樹種/ガジュマル ▶本部町字浜元121 浜元行政区 国令和5年度

樹高 幹周 推定樹齢
12m 4.87m 150年



本部町字浜元の浜元地区公民館敷地内に生育している。地域住民より「アンマーフチュクル(母のふところ)」の愛称で親しまれ、地域のシンボルツリーとなっている。

020 **ひんぶんがじまる**
樹種/ガジュマル ▶名護市大東1-299 名護市 国平成14年度

樹高 幹周 推定樹齢
19m 10m 280~300年



名護市の商店街の入口に堂々と立つ巨木である。分岐した幹から、四方八方に繁茂する枝葉が形づく樹冠や、幾条もの気根を垂らす姿に圧倒される。「ひんぶん」とは屋敷の正門と母屋の間に設けられた塙のことで、外からの目隠しや、悪霊を防ぐものと言われている。1750年、具志頭親方蔡温は、当時の運河開通論と王府の名護移遷論を鎮圧させるため、三府龍脈碑(さんぷりゅうみやくひ)を建てた。この石碑がヒンブンのように見えることから「ヒンブンシー」と名付けられ、その隣に生育するこのガジュマルもいつしか「ひんぶんがじまる」と呼ばれるようになった。

021

あがりえのみふくらぎ

東江のミフクラギ

樹種／オキナフキョウチクトウ ▶名護市東江159 名護市 国平成24年度



樹高 11m 幹周 3.15m 推定樹齢 200年

当該樹木は、名護市の東江の集落内に生育する。市指定天然記念物でわが国でも最も大きなミフクラギの個体と思われる。地上70cmのところから幹が2つに別れ、それぞれ胸高直径が、54cmと41cmとなる。ミフクラギはキョウチクトウ科の常緑高木で別名、オキナフキョウチクトウとも呼ばれる。5月頃から白い美しい花を樹冠一面につけ、10月から12月にかけて紫紅色の果実(6~10cm)を熟させる。方言名の『ミフックワギー』は、乳色の樹液を目に入れると、目が腫れることから呼び名がついた。美しい球形をした樹冠の長いところでは約12mあり、かつてはその樹木の陰で、子どもたちが遊び、お年寄りが涼む光景が見られた。

023

こうちかわらはーがまのていご

幸地河原ハーブ前のデイゴ(夫婦デイゴ)

樹種／デイゴ ▶名護市大東298-2 名護市 国平成24年度



樹高 8.5m 幹周 4.25m 推定樹齢 100年

当該樹木は、幸地川沿いに残る原風景を象徴する樹木である。同河川には、本デイゴのほかにも、ひんぷんがじまるが所在している。周辺にある東江小中学校や名護城、市街地などの発展とともに歩んできた。このことから、地域で親しまれ大切にされてきた貴重な樹木である。特に、2個体が林立するその姿から夫婦デイゴとも呼称されている。幹全体は南に傾き、現在は歩道内に取り込まれている。東幹は北面が腐朽空洞化しており、人の往来も激しく路圧も大きいため、生育環境は必ずしも良好ではないが、生き生きと生育している。

022

まきやのさがりばなぐんらく(もーかばな)

真喜屋のサガリバナ群落(舞香花)

樹種／サガリバナ ▶名護市真喜屋152,他 名護市 国平成24年度



樹高 6m 幹周 0.64m 推定樹齢 150/20年

当該樹木は、名護市の真喜屋の集落内を流れる水路のふちに生育する。市指定天然記念物で樹木の高さはわが国最大級のものと思われる。葉の間から長さ50~70cmの穂状の花序をたらし、たくさんの薄いピンクや濃いピンクの花をつける。花序は、長いもので1mを超えるものも観察されており、夏の開花時期には独特の香りをかもしだし、夕方より咲き始める花は幽玄で見るものを圧倒させる。当該樹木は2002年の台風で幹が折れたものの、地元住民らが再生に力を注ぎ、花を咲かせるまでに復活させた。折れた幹の上部2.5mも植え替えに成功し、立派な花を咲かせた。17年前から「なご真喜屋舞香花会」を立ち上げ、毎年「サガリバナ」の花が咲く時期に合わせて「舞香花祭り」を企画し、真喜屋の「舞香花」を一目見ようと訪れる人々を楽しませている。

024

せきたしょうがっこうのせんだん

瀬喜田小学校のセンダン

樹種／センダン ▶名護市幸喜4番地1 名護市 国平成24年度



樹高 10.1m 幹周 3.6m 推定樹齢 105年

名護湾を望む国道58号線沿いにある瀬喜田小学校の校庭に生育する。両手を広げるように枝を伸ばし堂々としている。明治41年(1908年)に瀬喜田尋常小学校の4~5年生男子9名が、記念木として植えた。しかし、同年の台風で隣家の竹垣が倒れ根元から折れてしまったが、幸い新しい芽が

出て今日の巨木へと成長した。センダンの幹は太く、全体的に南へ傾いているが、約3mの高さから枝は南に曲折し2つに分枝して、低く伸び美しい樹冠を保っている。当該樹木は児童生徒、卒業生の心のよりどころとなる他、区民に親しまれ大切にされてきた貴重な樹木である。

025

あわしょうがっこうのがじゅまる

安和小学校のガジュマル

樹種/ガジュマル ▶名護市宇安和174番地 安和小学校 国令和2年度



樹高 14m 幹周 14.1m 推定樹齢 85年

安和小学校は「嘉津宇岳安和岳八重岳自然保護区」の麓に位置し、ガジュマルが生育する場所から嘉津宇岳、安和岳の全体を身近で望むことができる自然豊かな場所である。安和小学校の校庭に生育するガジュマルは、児童の成長を見守り、ともに成長した樹木である。枝ぶりが良く、その大きな緑陰は子どもたちの遊びの場や保護者の憩いの場となっている。安和小学校のシンボルとして、地域住民や学校の児童、保護者、先生により大切にされ、長く地域に親しまれている。



026

かんなのはすのはぎり

漢那のハスノハギリ

樹種/ハスノハギリ ▶宜野座村漢那1840 自治会 国平成16年度

樹高 幹周 推定樹齢

9m 4.1m 200年



漢那区公民館の敷地内にある当樹木は、地上1.8m付近で枝が二股に分かれ、ゴツゴツした樹肌をしており、この地の歴史の重みを感じさせる。生育地は1944年頃まで樹木が鬱蒼と茂る御嶽であった。村落の神聖な場所である御嶽は神が存在する場所と考えられ、聖域として保護されていたた

め、住民も減多に足を踏み入れることはなかった。当樹木は、現存するサキシマスオウノキやアコウなどとともに、神聖な場所を形成する樹木として昔から地元の人々に尊ばれてきた。当地は戦後開放され、現在は地域住民の憩いの場となり、この貴重な古木も地域に親しまれている。



027

かんのんじのふくぎ

観音寺のフクギ

樹種/フクギ ▶金武町金武222 個人 国平成16年度

樹高 幹周 推定樹齢

12m 3m 350年



観音寺は、16世紀に日秀上人によって建立されたと言われる寺である。戦災を免れた当寺院の礼拝道に、周辺の樹木よりひととき大きな姿を見せるこのフクギは、訪れた人が自然に背筋を正したくなるような立ち姿で、町民の愛郷心を育む先人からの遺産として親しまれている。昭和9年の観音堂の火災や先の大戦など度重なる災難を免れた当樹木は350年とも言われる長い年月を過ごしてきた。観音寺や境内にある鍾乳洞にまつわる伝承も多く、これらを語り継ぐ人達にも当樹木が観音寺の風景として思い描かれているだろう。

028

がじまる

ガジュマル

樹種/ガジュマル ▶金武町金武151 自治会 国平成18年度

樹高 幹周 推定樹齢

10m 4.2m 40年



当ガジュマルは金武公会堂前に生育し、広場では十五夜に観月会が行われ、獅子舞やミルクの伝統芸能などが演じられる。戦後に植栽された若い木であるが、金武区の伝統行事を見守り、区民に親しまれている樹木である。

中部

うるま市／沖縄市／読谷村／
嘉手納町／北谷町／北中城村／
中城村／宜野湾市／西原町

Central

Okinawa Main Island

Uruma City
Okinawa City
Yomitan Village
Kadena Town
Chatan Town

Kita Nakagusuku Village
Nakagusuku Village
Ginowan City
Nishihara Town

The Guide of
Selected Famous Trees
in Okinawa

001

うちまどうんのさわふじ

内間御殿のサワフジ

樹種／サガリバナ ↑西原町嘉手納51-1 西原町 国平成15年度

樹高 幹周 推定樹齢

6m 1.6m 400年以上



サガリバナは、熱帯・亜熱帯の広い範囲に分布し、奄美大島を北限とする常緑小高木で、海岸付近の低湿地やマングローブ、河川沿いの湿地に自生している。夏以降、総状花序の白又は淡紅色の花が垂れ下がり、多数の花をつけることから別名「サワフジ」と呼ばれる。花の形状が鳩目銭をぶら下げているのに似ていることから地元では「ジンカキギー（銭掛け木）」と呼ばれ親しまれている。夕刻から未明にか

けて花を咲かせ、明け方には雌しべを残して散ってしまう。当サガリバナは、第二尚氏王統の始祖・尚円王を祀る神殿、国指定史跡「内間御殿」の入口に位置することから、「内間御殿のサワフジ」と呼ばれている。なお、「内間御殿のサワフジ」は樹齢400年以上と言われており、平成24年に西原町の天然記念物に指定された。樹高約6m、主幹周約1.6m、枝は幹から東西南北に約4m張り出している。

002 クーガー(ウブガー)のガジュマル

くーがー(うぶがー)のがじゅまる

樹種/ガジュマル ▶うるま市山城271 自治会 国平成14年度

樹高 幹周 推定樹齢

15m 6m 600年



1838年、冊封使として来琉した林鴻年は「源遠流長」(意味:源流は遙かに遠く、長い滾々(こんこん)と水の湧き出る泉)の書を残した。この4字が「クーガー」と呼ばれる井戸の上の岩に刻まれている。水饑死に苦しんだ人々が泉への願いを込めて建てたであろうこのクーガーは地域の文化財である。当ガジュマルはその井戸の前に生育する。井戸は集落が現在地に移動した後にできたとされ、区の簡易水道ができる1958年まで共同の水汲み場として使用された。また、正月には多くの村人が水の神へ感謝を捧げ、その畏敬の念を込めてこの木が植栽されたという。井戸とその一帯は自治会長と頭(東と西に1人ずつ)しか清掃できないという慣習があるほど神聖な場所である。

003 ガジュマル

がじゅまる

樹種/ガジュマル ▶うるま市浜112 自治会 国平成14年度

樹高 幹周 推定樹齢

10m 3m 100年



このガジュマルの生育地は浜比嘉島の海岸近くの御嶽内にある。この御嶽は「東あがりの御嶽(シヌグ堂)」と呼ばれ、旧暦の6月28日と8月28日に海の神(しげ)を祈願する「シヌグ祭り」が行われる。戦前までは遊び場として、島の若い男女がこの木の下で踊りの練習を行っていたが、現在は神

聖な場所として立ち入るものも少ない。この木は他の樹木を取り巻くように枝葉を勢よく立っている。地上から多数に分岐する幹は、複雑怪奇に展開し、多くの気根が垂れ下ると共に、幹にも気根が絡みつき、威容を誇っている。

004 津堅小中学校のクワノハエノキ

つけんしょうちゅうがっこうのくわのはえのき

樹種/クワノハエノキ ▶うるま市津堅1327 学校 国平成16年度

樹高 幹周 推定樹齢

10m 2.6m 75年



明治27年に開校し平成6年に100周年を迎えた津堅小中学校は津堅島の教育・文化の発信地として、また地域住民の交流の場として親しまれている。学校の中央に生育する当樹木は、枝ぶりがよく、子ども達が木登りしたり保護者の憩いの場である。津堅島は、小さい島ながら先の大戦の激戦地となった悲しい歴史を持っている。現在は学舎に暖かな空間と高い風致景観をつくり出し、未来を担う子ども達の成長を見守っている。当樹木は落葉性の高木で樹高約10m、幹周2.6m、推定樹齢75年と、若齢で小さいが、島の人々の想いが深く刻み込まれ、地域のシンボルとしてふさわしい樹木である。

005 シヌグ毛のクワディーサー

しぬぐもうのくわでいーさー

樹種/モモタマナ ▶うるま市と那城平安座8168-1 自治会 国平成24年度

樹高 9m 幹周 3.3m 推定樹齢 300年



伊計・宮城・平安座・浜比嘉の4島内の小中学校が統廃合してできた「彩橋小中学校」の校庭に生育している。当該樹木が生育している周辺は、もともと平安座区の聖地(シヌグ毛)となっており、当該樹木が「シヌグ毛のクワディーサー」と呼ばれ、この木の下で、シヌグ祭りが行われ、祈りの場として神人が供物を捧げ島の災いを払い、豊作を願った場所であった。このことから、地域住民からとても大切にされ、親しまれてきた樹木である。学校校庭の一部となった現在でも、周辺ではシヌグ祭りが行われ、樹木の下には御願所が存在し、地域の人たちに大切に管理されている。学校校門の正面に位置し、長い間、児童生徒の健やかな成長を見守りながら、遊び場や憩いの場を提供し続け、入学時のお迎えや卒業時のシンボルとして児童生徒に親しまれている。

006

しぬぐものでいご(みなみ)

シヌグ毛のデイゴ(南)

樹種/デイゴ ↑うるま市与那城平安座8164-2

管理自治会 国平成24年度

樹高 幹周 推定樹齢

7m 3.5m 100年



伊計・宮城・平安座・浜比嘉の4島内の小中学校が統廃合してきた「彩橋小中学校」の校庭に生育していた。当該樹木が生育していた周辺は、もともと平安座区の聖地(シヌグ毛)となっていた。また、当該樹木も「シヌグ毛のデイゴ」と呼ばれ、この木の下で、シヌグ祭りが行われ、祈りの場として神人が供物を捧げ災いを祓い、豊作を願った場所であった。このことから、地域住民からとても大切にされ、親しまれてきた樹木であった。学校校庭の一部となった現在でも、周辺ではシヌグ祭りが行われ、樹木のあった場所には御願所が存在し、地域の人たちに大切に管理されている。学校校門の正門に位置し、永い間、児童生徒の穏やかな成長を見守りながら、遊びや憩いの場を提供し、入学時のお迎えや卒業時のシンボルとして児童生徒らに親しまれてきた。

007

あしびなーのあこウ

アシビナーのアコウ

樹種/アコウ ↑うるま市与那城西原72-1

管理自治会 国平成24年度

樹高 幹周 推定樹齢

9m 3.3m 300年



当該樹木は、台風の襲来により2度の倒木の被害を受けたが、折れた幹から新たに根を張り、今もなお健在である。そこから伸びる枝葉は、以前と同じく青々と茂り、その緑陰の下では地域住民が憩いの場として利用している。また、当該樹木の周辺は、古くからの与那城西原区のアシビナーであり、区

十五夜の際には、この樹木の下で地域住民が集まり、祭りを開催するなど、地域の人々から大切に保護・管理され、親しまれている。2度も台風で倒れながらも、そこからまた根を出し成長を続けている当該アコウの姿は、樹木の生命力と力強さを感じさせる。

008

くるふくぎー

クルフクギー

樹種/フクギ ↑うるま市与那城伊計266

管理個人 国平成24年度

樹高 幹周 推定樹齢

12m 2.18m 300年



当該樹木は樹齢300年と言われ、植栽当時は台風から屋敷を守るために植栽されたが、今日に至っては、平屋の守り神とされている。また、当該樹木が生育している場所は、大正8年に建てられた伊計集落内にある伝統的な住宅内にあり、第1回うるま市景観賞を受賞している。現在は空き家となっており、住んでいる人はいないが、「昔ながらの古い家、屋敷が消えていく現在、少しでも樹木を残し、地域の景観形成に貢献していく」と地域の方々の思いのこもった樹木である。昔ながらの古い屋敷と石垣との調和、さらに涼しい木陰で人々の心を癒やしてくれるフクギである。

009

いーどんのがじまる

上殿(イードン)のガジュマル

樹種/ガジュマル ↑沖縄市与儀187

管理自治会 国平成14年度

樹高 幹周 推定樹齢

15m 5.6m 200年



上殿(イードン)と呼ばれる与儀集落創始者の住居跡地である拝所内に生育している。この場所は集落を見下ろす小高い丘にあり、地域の人々が守り神として大事にしている。このガジュマルは、第二次世界大戦の戦火を免れて生き残ったもので、樹齢は200年とも300年とも言われている。いくつ

もの気根が絡み、癒合して、樹体を成している。

010 いーどんのでいご
上殿(イードン)のデイゴ
樹種/デイゴ ▶沖縄市与儀187 自治会 国平成14年度 樹高 15m 幹周 3.2/3.5m 推定樹齢 200年



この2本のデイゴは、互いに枝を接し、根を絡ませている。幹は傾いているが、太く、樹勢は良好である。地域の人によると5年に1度、樹木全体が深紅の花で染まるという。認定番号011の「上殿のガジュマル」と同じ敷地内にあり、ともに戦火を免れ、現存する貴重な古木である。

011 あしびなーのがじゅまる
アシビナーのガジュマル
樹種/ガジュマル ▶読谷村波平1B-1 自治会 国平成14年度



樹高 8m 幹周 1.9~2.8m 推定樹齢 50~150年

このガジュマル群の生育地は、波平東門(はんじゃあがりじょう)と呼ばれる集落の遊び庭(アシビナー)で、昔から十五夜遊び、観月会など憩いの広場、豊年祈願の場として使われ、子ども達の遊び場としても利用されている。戦前には、広場に10本のリュウキュウマツの巨木とともに数本のガジュマルの大木があったが、艦砲射撃により消失、損壊し、2本のガジュマルだけが生き残った。戦後に篤志家により、3本のガジュマルが植(移)植された。しかし、戦前から生き残っていたガジュマル2本のうち1本が令和6年に倒れてしまい、撤去された。4本となったアシビナーのガジュマルは、枝葉が横に広がり、樹冠が一体化した状態で広場全体に緑陰を形成している。

012 きゅうふるげんこくみんがっこうあとのでいご
旧古堅国民学校跡のデイゴ
樹種/デイゴ ▶読谷村古堅63-4 自治会 国平成16年度 樹高 6.5m 幹周 5.8m 推定樹齢 100年



当樹木が生育している場所は、戦前、古堅国民学校の校庭であった。当時、樹木周辺では子ども達が遊び、夜には地域の青年が集い語り合う場所だった。戦後、この地は米軍施設となり、さらに昭和52年の返還の後は土地整備事業が導入されたが、地域の人々の強い要望により当樹木を残すこ

とになった。地上約1.2m付近から幹が分かれ、大きく横に広がった枝下には心地よい緑陰が形成され、安らぎの生活空間づくりに重要な役割を果たしている。当デイゴはこの地が巡ってきた歴史の記録者であり、地域住民の心にもふるさとの記憶として刻まれている。

013 ふるげんうがんのふくぎ
古堅ウガンのフクギ
樹種/フクギ ▶読谷村古堅53-4 自治会 国平成17年度 樹高 12m 幹周 2.8m 推定樹齢 300年



古堅のウガン(拝所)がフクギに囲まれるようにして存在している。この拝所の正面奥には古堅区の慰霊の塔、鎮守の神、池原之子(イチバルヌシー)の祠があり、雨乞い御嶽が祀られている。フクギは読谷村の村木であり、古堅ウガンのフクギは樹齢300年と推定されているが、植栽の由来について

詳細はわかっていない。戦前はフクギが数多くあったが、太平洋戦争で沖縄本島上陸時激しい地上戦があった同区には、戦火を免れたフクギが14本残っている。

014

とけししょうがっこうのがじゅまる

渡慶次小学校のガジュマル

樹種／ガジュマル 読谷村瀬名波547 個人 国平成17年度

樹高 幹周 推定樹齢

8m 5m 100年



渡慶次小学校の運動場の東側に生育し、根元は石やブロックで囲まれている。木陰は児童の遊び場となり、大きいガジュマルの学校、名物のガジュマルとして内外に広く知られている。明治37年頃に学校創立3周年記念木として各字の上級生が1人1本、合計6本植栽したものである。幹が地上

1mから分岐し、枝葉を8.4m～9.7mも広げ、大きな緑陰を提供している。

015

ながはまのふくぎ

長浜のフクギ

樹種／フクギ 読谷村長浜78 個人 国平成17年度

樹高 幹周 推定樹齢

9m 2.1m 150年



民家の一角に生育し、周辺は閑静な住宅街で、近くには公民館の広場、拝所があり、数本のフクギが屋敷林として植栽され、家屋の保全・地域住民の安らぎの場の役割を持っている。去った大戦の戦火を免れ、村内に存在する樹木の代表として貴重な巨木である。

016

あざかでないしよのおおがじゅまる

字嘉手納拝所の大ガジュマル

樹種／ガジュマル 嘉手納町嘉手納34 自治会 国平成19年度

樹高 幹周 推定樹齢

18m 8m 240年



字嘉手納拝所の大ガジュマルは嘉手納町に残る数少ない大木である。ガジュマルの周囲をブロック塀で囲み保護し、字の拝所が設けられている。昭和51年に嘉手納町の天然記念物に指定され、保護されている。説明版には、この付近はかつてリュウキュウマツや雑木が生い茂る山で、この大

ガジュマルは1990年前後から現在の大きさだったと伝えられているとある。また、この一帯は琉球国旧記に記載されているナカムイという御嶽で、現在の祠は戦後建てられたものと言われている。

017

がじゅまる

ガジュマル

樹種／ガジュマル 北谷町吉原 北谷町 国平成14年度

樹高 幹周 推定樹齢

10/11m 3.7/2.7m 300年



このガジュマルは、戦前、屋敷林として家屋保全の役割を担っていた。ガジュマルは戦禍を免れたが、この場所は北谷中学校の敷地となり、大きく枝を広げるガジュマルの樹下は、生徒の憩いの場となった。その後、校庭の整理事業でもガジュマルは伐採されず、現在は中学校正門前の街路樹となり、植樹樹で保護されている。

018

にしなかつのおおあかぎ

西仲松の大アカギ

樹種／アカギ 北中城村島袋80 個人 国平成19年度

樹高 幹周 推定樹齢

8m 4.5m 268年



当樹木は島袋集落の小高い丘に生育しており、北中城村指定の名木1号に指定され、島袋区のシンボルとなっている。周囲は裸地であるが、大アカギの樹勢は旺盛で、幹下部はコブ状となり独特の樹幹をしていて、オオタニワタリが着生している。

019

とまりのおおくわでいさー

泊の大クワディサー

樹種／モモタマナ 中城村泊132 自治会 国平成16年度

樹高 幹周 推定樹齢

11.5m 3.7m 200年



国道沿いに人目をひくように生育している当樹木は、「泊の大クワディサー」として地域の人々に親しまれている。伝承によると今から200年ほど前、中城間切番所に首里王府から役人が派遣され、その任期を終えて離任する際、懇意にしていた泊集落の人達との別れを惜しんで植えた樹木であると言われている。扇状に大きく伸びた枝が作り出す緑陰は人々に安らぎを与えている。また、現代人を琉球王朝時代に思いを引き寄せさせる当樹木は、歴史の語りべとして地域に愛される古木となっている。なお、同名称で村の天然記念物に指定されている。

020

ふてんまこうこうのばんのき

普天間高校のパンノキ

樹種／パンノキ 宜野湾市普天間1-24-1 県 国平成19年度

樹高 幹周 推定樹齢

11m 1.25m 100年



現在普天間高校がある場所には、戦前、農事試験場があり多くの樹木が県内外から導入された。その後試験場は移設し、跡地には普天間高校が設立されたが、導入された樹木は現在も高校敷地内にそのまま引き継がれている。生育は極めて良く、導入樹木がいくつか残る中で一際大きいパンノキがある。ふたてに分かれた太い幹が空に向かって伸びる様子は、まさに校内の大黒柱である。多くの在校生、卒業生の記憶に残る思い出の木としての存在感をもっている。県内では、数少ない導入樹木の老木として普及啓発していきたい。

021

うちまうどんのふくぎ

内間御殿のフクギ

樹種／フクギ 西原町嘉手苅51-1 西原町 国平成15年度

樹高 幹周 推定樹齢

各1.3m 13/15m 各180年



当フクギは、認定番号031と同じ尚円王ゆかりの地「内間御殿」に生育している。この木の他、御殿内には敷地を囲む石垣に接するように多数のフクギが立っており、古き沖縄の原風景である石灰岩の石積み（石垣）とフクギの佇まいが見る人を古の時代に誘い込むような雰囲気がある。このような中において、2本の幹が互いに寄り添い合い一体化しそびえ立つ姿は威風堂々としている。

南部

Southern

Okinawa Main Island

Urasoe City
Naha City
Tomigusuku City
Itoman City

Yaese Town
Nanjo City
Yonabaru Town
Haeburu Town

The Guide of
Selected Famous Trees
in Okinawa

浦添市／那覇市／豊見城市／
糸満市／八重瀬町／南城市／
与那原町／南風原町

001

しゅりきんじょうのおおあかぎ

首里金城の大アカギ

樹種／アカギ 樹高 26.4m 幹周 7.6m 推定樹齢 200年



首里金城の大アカギは、古からそこにあり、戦火が激しかった中を奇跡的に難を逃れ、今もこの場所にたたずむ大木である。当樹木は鬼餅伝説など歴史的に貴重な御嶽境内にあり、昭和47年の復帰の日国指定天然記念物に指定され、保護が図られている。金城町は、那覇市の中でも歴史的遺産が数多く残されており、周囲22haは景観形成地域として指定され、歴史的町並みの保全を

図っている。様々な言い伝えのある御嶽もあり、歴史を学ぶのに適した場所である。

002 うちまのうふあかぎ
内間の大アカギ
樹種／アカギ 浦添市内間3-28-12 自治会 国平成18年度 樹高 18m 幹周 4.25m 推定樹齢 400年



アカギは平安時代、朝廷への朝貢物として重宝され、位記の軸や太刀の柄、和琴の脚や櫛などに用いられていた。近代では防風樹としての役割、菜種油圧搾器、製糖車台などに使用される有用材であったという。当樹木のしたに村の井戸があったため、内間の大アカギは「神木」とされ大切にされ

てきた。戦前の村の祭りではアカギの前で組棒を行ったという。また、戦災を免れて生き残った大樹のひとつであり、大切に保護していきたい古木である。

003 しょうがくのがじゅまる
城岳のガジュマル
樹種／ガジュマル 那覇市楚辺1-13 那覇市 国平成19年度 樹高 17.6m 幹周 5.5m 推定樹齢 100年



城岳のガジュマルは、市道城岳小学校北側線(通称：城岳馬場通り)に位置し、戦前から民家にあったもので、道路拡張工事の際に切られるところを道路線形の変更により、地域のシンボルとして活かされるようになった。現在、街路樹として保護されている。かつてこの場所は古波蔵馬場と呼ばれ、月に1回競馬が行われていた。馬のモニュメントと馬場の説明版が設置されている。ガジュマルの周囲は住宅や学校が密集しており、市街地でひととき目立つ存在となっている。樹幹はほぼ通直で、枝を大きく広げ、見事な緑陰をつくり、地域の人々に親しまれている。

004 たからこうえんのがじゅまる
高良公園のガジュマル
樹種／ガジュマル 那覇市高良1丁目 那覇市 国平成19年度 樹高 8.9m 幹周 3.9m 推定樹齢 150年



当樹木は、高良公園内にある高良御嶽の拝所前に生育しており、戦前に宇栄原集落から移植された。高良に住む人々が総出で運び出したと言われ、昔から親しまれている大木である。樹幹は株立状で根本から数本に分かれ、上方に大きく展開し、円錐状の樹冠を形成している。ガジュマル特

有の気根が少ないが、その樹形から子ども達の遊び場として親しまれている。

005 とっくりきわたあまのかぶ
トックリキワタ天野株
樹種／トックリキワタ 那覇市おもろまち4-1 那覇市 国平成19年度 樹高 5.5m 幹周 2.4m 推定樹齢 43年



トックリキワタ天野株は、沖縄県緑化推進委員会元理事長の故天野欽夫氏が昭和39年10月3日にボリビアから持ち帰り、種から育てたもので、沖縄のトックリキワタのルーツと言われている。11月の花期にはピンク色の花をいっぱい咲かせる。所有者の住宅建て替えに伴い、おもろまち駅前の新都心公園に移植された。トックリキワタは、「南米桜」として多くの人々に親しまれており、特にこの「天野株」はトックリキワタの導入樹木として大変貴重と判断され、大切に保護したい樹木である。

006

ふーげんびれあ(なはしまつお)

ブーゲンビレア(那覇市松尾)

樹種/ブーゲンビレア ↑那覇市松尾1-21-44 西学校 国平成27年度



樹高 13.5m 幹周 0.65m 推定樹齢 13年

このブーゲンビレアは、平成14年3月6日に那覇高等学校の管理棟の改築完成を機に、当時の用務員が植樹したのが始まりで、約13年で4階部分まで伸びて広がっている。1階にある花壇に、ポット植えていたものが次第に大きくなり、花壇に根が伸びている。各階のベランダに枝が広がっており、最も広がっている2階で枝葉が19メートル程に広がっている。



007

つばやししょうがっこうのせんだんのき

壺屋小学校のせんだんの木

樹種/センダン ↑那覇市牧志3丁目14番12号 西那覇市 国令和6年度



樹高 11.5m 幹周 3.9m 推定樹齢 100年

那覇市牧志にある壺屋小学校校舎の玄関前に生育している。戦後すぐにこの地で開校したときには、すでに植生されており、長きにわたり子どもたちや街の成長を見守ってきた。現在も小学校のシンボルツリーとして親しまれ、児童、PTCAで保護・管理を行っている。樹形は、横広りの傘型に樹冠が美しく形成されている。開花の時期には、藤色がかった白色の小さな花が咲き、実りの時期には鈴なりの実をつけ、やがて落葉するため、容姿の変化で季節感を感じることができる。



008

かかずこうみんかんのがじゅまる

嘉数公民館のガジュマル

樹種/ガジュマル ↑豊見城市嘉数1-1 西自治会 国平成19年度



豊見城市の北東部に位置し、小高い丘の上にあり、東に那覇、南部を一望できる長嶺城址、西に豊見城城址・漫湖公園・遠くは慶良間まで見渡せる嘉数バンタがあり、自然環境に恵まれたところである。また、高台にありながら湧き水が流れ、昔から現在まで区民の拝所として大切にされてきた場所で、



その一角に「嘉数公民館のガジュマル」が生育している。このガジュマルは戦前・戦後を通し嘉数区民を見守っている。気根は切れ、主幹の下部には空洞が見られるが、樹勢は旺盛で美しい樹冠をしている。

009

いとまんしょうがっこうのがじゅまる(まんもす)

糸満小学校校庭ガジュマル(マンモス)

樹種/ガジュマル ↑糸満市糸満673 西糸満市 国平成19年度



樹高 10m 幹周 4.4m 推定樹齢 150年

糸満小学校の校庭ガジュマルは、戦前から小学校の顔として大切にされてきており、現在も愛称「マンモス」として命名され、児童に親しまれている。樹冠は大きく広がり、約180㎡の緑陰を形成し、風格ある形をしている。



010

なんざんじょうしりよくいんのがじゅまる

南山城址緑陰のガジュマル

樹種/ガジュマル群落 ↑糸満市大里1901 西糸満市 国平成19年度

樹高 幹周 推定樹齢

10m 4.4m 100年



南山城は1400年代頃の三山分立時代に栄えていたグスクで、歴代の南山王の居城として栄華を誇ったとされる。現在は城跡の石垣と拝所を残すのみとなり、跡地に小学校が建てられた。当ガジュマルの緑陰が素晴らしく、地域の憩いの場、学校の環境学習の場として地域から大切にされている。



011

なかぬとんのでいご

ナカヌトンのデイゴ

樹種/デイゴ ↑糸満市喜屋武喜屋武公園 西糸満市 国平成19年度

樹高 幹周 推定樹齢

8m 3.3m 100年



喜屋武公園ナカヌトンのデイゴがあるナカヌトンは、地元の御嶽で信仰の地である。戦前、御嶽は村芝居会場として活用され、この2本のデイゴを中心に舞台を作り、地域の伝統文化を保存した。現在も各種イベントの際には会場として利用され、このデイゴは地域住民に親しまれ、御嶽になくてはならない貴重な木である。沖縄戦終焉の地で、焼け野原の中、偶然に2本揃って生き残った。樹形はいずれも変化にとんだ大枝が傘状に展開し、御嶽の巨木・古木として風格ある形をしている。



012

でいご(しまくさー)

デイゴ(シマクサラー)

樹種/デイゴ ↑糸満市米須271-1 西糸満市 国平成29年度

樹高 幹周 推定樹齢

9m 3.31/4.48m 150年



米須グスクの麓に、戦禍をまぬがれて生き延びた樹齢150年のデイゴの老木がある。旧暦12月8日のシマクサラーという行事の日には、この木に牛の骨を吊して厄除けの願いをする。地元では「シマクサラー」と呼ばれご神木として崇められている。木の周辺はみんなのガーデンとして定期的に除草し、花壇として整備している。現在「村まるごと博物館」の取り組みがあり、観光コースとして「あじうがみまーいコース」に含まれている木である。



013

ふうふがじゅまる

夫婦ガジュマル

樹種/ガジュマル ↑糸満市大里320-1 西糸満市 国平成29年度

樹高 幹周 推定樹齢

12.7m 7.18m 160年



糸満市字大里に「ミジガジュマル」と「イシガジュマル」と呼ばれる2本のガジュマルの木が隣り合って植えられており、地域ではこの2本を「夫婦ガジュマル」とも呼んでいる。集落が古島(屋古村)から現在地に移動したあと、ブズン川に植えてあったガジュマル2本を現在の南山城跡の麓、嘉手志

川側に移し植えたといわれている。ガジュマルの枝が大きく広がっており、心地よい木陰を作り出しており、区民だけでなく多くの人の憩いの場になっている。毎年区民、地域で除草を行って大事に管理している。地元では看板を設置し、区のシンボルとしたいと考えている。



014

ガジュマル(なかざんめーぬがじまる)

ガジュマル(仲座ン前ヌガジマル)

樹種/ガジュマル 糸満市座波128 糸満市座波区自治会 国平成29年度



樹高 9m 幹周 4.26m 推定樹齢 70年以上

糸満市座波集落内、仲座の屋敷前方に三角形の広場状の路地があり、その中央に戦前からガジュマルの木が残っており、「仲座ン前ヌガジマル」と地元の人々から親しまれている。

「糸満市史P.131第4節村落組織と活動」抜粋集落内、(仲座)の屋敷前方には三角形の広場状の路地がある。路地の中央には幹周4m余りの戦前からのガジュマルの大木があり、「仲座ン前のガジマル」と地元の人々から親しまれている。古くは座波の集落は、この「仲座ン前」より南に人家はなく、仲座の前の通りから南をシマヌメー(ムラの前)と呼んでいたという。

015

ももたまな(あぎーがーのくわディーサー)

モモタマナ(アギーガーのクワディーサー)

樹種/モモタマナ 糸満市賀数230-1 賀数自治会 国平成29年度



樹高 13m 幹周 4.35m 推定樹齢 113年

この木は、井泉(アギーガー)の側にある。地元ではこの木を「アギーガーのクワディーサー」と呼んでいる。大きな樹冠が木陰を作り憩いの場になっている。「糸満市史P.215第8節祭祀と信仰」によると、(アギーガー)アギーガーは、1882(明治15)年に区民総出で掘った井泉(カー)で、水量が豊富で地下から吹き上げるように湧き出たのでアギーガーの名が付けられ、水道が敷設されるまで賀数の水源として活用された。カーの側にある見事な枝ぶりのクワディーサー(モモタマナ)の大木は、1904(明治34)年に賀数から最初の兵隊として日露戦争に出征した東仲伊元(アガリナカイムトウ)の大城亀が無事に帰還したのを記念して、国吉(クヌシ)の大城樽らが植えたとのことである。

016

とうめのがじまる

当銘のガジュマル

樹種/ガジュマル 八重瀬町当銘42 八重瀬町自治会 国平成16年度



旧東風平町の県道134号線近くにある「当銘のガジュマル」は樹高12m、樹齢300年と言われる巨木である。垂れ下がる多数の気根は地面に到達し、荘厳な景観をつくり出している。当樹木の下には拝所があり、地域の人々の信仰の対象となっている。また、ソントン(舜天王のこと。舜天王:琉球の

樹高 幹周 推定樹齢

12m 18m 300年



歴史書に登場する王) 御イペ居住地跡の囲いであるという故事も伝わっている。なお、当樹木は町の天然記念物に指定されており、沖縄県環境保健部自然保護課(当時)実施の「巨樹・巨木林調査」において沖縄の巨木に選ばれている。

017

よなぐすくのがじまる

世名城のガジュマル

樹種/ガジュマル 八重瀬町世名城590 八重瀬町個人 国平成16年度



八重瀬町世名城にある報徳川近くに生育する当ガジュマルは地域のシンボルとして地元から親しまれている。垂れ下がる無数の気根が形作る23.5mの巨大な幹は、大人10人が手をつないでも取り巻けないほどの太さであり、見る人に圧倒的な存在感を与えている。2000年の環境省巨樹・巨木林調

樹高 幹周 推定樹齢

10.3m 23.5m 250年



査において、全樹種中で幹周り全国3位に値する(ガジュマルは幹の形状が特殊なため正式にはランキングに入っていない)。地元のシンボルとなる当樹木は、その大きさと形状から地域住民だけでなく訪れる観光客をも楽しませている。

018

ぐしちゃんのふくぎなみき

具志頭のフクギ並木

樹種/フクギ並木 ↑八重瀬町具志頭355-5 国 国平成17年度

樹高 幹周 推定樹齢

13m 2.5m 390年



当フクギ並木は1613年に具志頭間切番所が設置されたときに植栽されたという言い伝えがある。現在は国道331号線沿いに71本、最も樹高の高いものは13m、幹周りは最も太いもので2.5mになる。個人の防風林だった並木を、道路整備のため国の所有となったが、並木を守りたいという地域住民の思いと美観を尊重した国の考えが一致し、フクギは守られ、現在も旧村役場前から北東へ約120mもフクギ並木が続いている。また、フクギ並木に散策道が完成したことをきっかけに「ぐしちゃん福の木通り会」が結成され、景観美化活動や各種イベントを行っている。



019

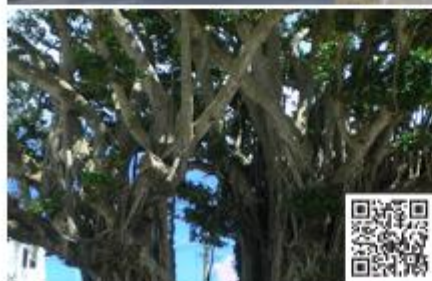
ぐしちゃんふいじがじゅまる

具志頭V字ガジュマル

樹種/ガジュマル ↑八重瀬町具志頭659 国 八重瀬町 国平成24年度

樹高 幹周 推定樹齢

10m 4.4m 50年



約50年前当時具志頭中学校の敷地内であったこの場所に、卒業記念として植えられたガジュマルが成長し、Vの字の形を成した。その後役場の敷地となったが、そのままの状態では保護管理されており、普段は日陰のある休憩所として利用されている。特徴的なV字の樹形は根元から綺麗に分岐しており、幹は多数の木根が絡みつき、胸高での幹周は4.4mにもなる。近くで見ると樹齢50年(推定)には思えないほど真緑のある佇まいである。地域のシンボル及び地域住民の憩いの場として大切にされている。



020

こしはらのにほんまつ

後原の二本松

樹種/リュウグウノツバ ↑八重瀬町後原527 自治会 国平成24年度

樹高 幹周 推定樹齢

9m 2.2m 100年



自治会の公民館敷地内にある二本松は、明治41年に「字後原」が誕生したときのものと考えられることから樹齢は100年は超えるという説が強く、松の下には御願所が整備されて崇拝の場所としても地域住民から親しまれている。また、八重瀬町の東側に位置し、サトウキビなどの畑作が広がる地

域にある。周辺には当該樹木以外に高い木はなく、後原公民館の入り口にそびえ立つ姿は堂々としている。地域では「夫婦松」や「兄弟松」などと呼ばれ、晴れた日にはその下でゲートボールを行ったり、夏にはお盆祭を開催したりなど、地域住民にとって憩いの場所となっている。



021

びんぎ

ビンギ

樹種/クワノハエノキ ↑南城市百名1073 個人 国平成14年度

樹高 幹周 推定樹齢

10m 3.3m 200年



この樹は、去った大戦で砲弾の破片が無数に突き刺さったものの、樹の所有者や地域の住民が大切に守ってきたことで、今でも真っ直ぐ幹を伸ばし、多数の枝葉を上へ横へ展開し、力強く立っている。地元では、「ビンギ小(グワ)」と呼ばれ親しまれている。また、平成4年には玉城村(当時)の老樹・巨木に認定されている。



022 久手堅の大アカギ

くでけんのおおあかぎ

樹種/アカギ 南城市久手堅134 個人 国平成14年度

樹高 幹周 推定樹齢

15m 2.3/3.6m 110年



このアカギは、百数十年前、首里城の改修工事の際、伐採され、その後、切り株から芽を出した(萌芽)ものである。3本の樹幹が合わさって現在の形をつくっている。石灰岩台地の縁のあたりの湿った場所に生息しており、平成14年度3月の村道(当時)改修工事の際にも地元からの要望で譲られた。生育地の北側には久手堅集落の水源地である、「上ヌカー」があり、また、根人田跡にも隣接する。久手堅の水利事業の発祥地でもあり、すぐ近くに世界遺産の「斎場御嶽」もある歴史深い場所である。市の天然記念物に指定され、地域から親しまれている。

023 ノロ殿内のガジュマル

のろどんちのがじゅまる

樹種/ガジュマル 南城市大里字大里484-5 個人 国平成17年度

樹高 幹周 推定樹齢

9m 5m 110年



大里城址は、標高約150mの琉球石灰岩からなる丘陵台地にあり、北側から西側にかけての崖を利用した堅固な城壁を持つグスクである。ノロ殿内は、東側城壁のすぐ外側に位置していると思われる。歴代大里按司と神女(祝女)の位牌が祀られており、大里按司の末裔とも言われている。この西原祝

女殿内にガジュマルの巨木が生育しており、樹勢は旺盛で、気根が垂れ下がる姿は神秘的である。また、毎年、公園内において「大里むーちー祭」が行われており、当ガジュマルも地域のシンボルとして大切にされている。

024 照屋家のガジュマル

てるやけのがじゅまる

樹種/ガジュマル 南城市大里字大城2366 個人 国平成17年度

樹高 幹周 推定樹齢

9m 6m 110年



大城区内を横断している南風原～稲福線沿いに生育している。屋敷内のヒンブンの傍らにあり、庭の中央に植えられた巨木。所有者の祖父の代には既に植えられていたと伝えられている。根元はアスファルトで舗装され、気根も全て切断されているが、旺盛であり、所有者が定期的に剪定を行っている

ため樹冠は傘状に整っている。樹冠長は15mに達し、大里地区内に知られる名木である。

025 与原公民館の大アカギ久葉堂赤木(クファドゥウフアカギ)

よーばるこうみんかんののおおあかぎ、くふあどぅうふあかぎ

樹種/アカギ 与那原町与那原912 個人 国平成15年度

樹高 5m 幹周 3.6m 推定樹齢 150年



ここには「久葉堂」と呼ばれる拝所があり、区民の聖地となっており、祠を囲むように正面に当アカギ、周りにアコウ、ガジュマルなどが互いに樹冠を接し生育している。「久葉堂」は町内の運玉森に所在する「間得大君カナン」の墓を遷葬する箇所として参拝され、地元では昔、運玉森が崩れた際に亡くなった人の霊を慰めるための拝所とされている。去る大戦により樹齢100年を超える木も壊滅状態にあった中、戦火を免れた貴重な樹木である。また、当アカギの生育する「あかぎ児童館」の名称も、この木から名付けられている。

026

おおなひーじゃーがーのがじまる

大名ヒージャガーのガジュマル

樹種／ガジュマル 南風原町大名79 個人 国平成15年度

樹高 幹周 推定樹齢

5.1m 3.8m 70年以上



当ガジュマルの生育地は、かつて「ヒージャガービラ」と呼ばれた坂で、昔里と与那原を結ぶ宿道(基幹道路)であり、琉球王府時代に王妃一行が久高島や斎場御嶽に詣でる際に通行した道である。その際、王妃が当時生育していたガジュマルの緑陰で休憩し、ヒージャガー(井戸)の水を所望したところ、そのおいしさを賞賛し、後に碑を建立したとされており、石碑には井戸の由来が刻まれている。この井戸は現在も水量が豊富で、傍らに立つ当ガジュマルの他、大小7本のガジュマルが絡み合い立っている。この地に生育する「大名ヒージャガーのガジュマル」は、井泉の涵養や景観形成として切り離せない存在である。

027

かみざとちくのがじまるぐん

神里地区のガジュマル群

樹種／ガジュマル 南風原町神里147-1他 個人 国平成28年度

樹高 5.65-9.55m 幹周 21-9.26m 推定樹齢 70年以上



南風原町の神里地区には戦前から残るガジュマルが残されている。認定された4本の樹高は5~9メートルとなっており、いずれも推定樹齢が70年以上となっている。南風原町史において、集落の中心に位置するナカシモのガジュマル①は、戦争で一度焼けたが100歳になるおじさんが子供の頃から生育していたという。ガジュマル②、③は民家の敷地内にある。ガジュマル②は敷地の囲いを気根が覆い、高く伸びた枝が道路に日陰を作っている。ガジュマル③は、2本のガジュマルがからみついており、ユニークな樹形になっている。ガジュマル④は集落内の拝所の上間之殿(イーマスドゥン)の傍にある。4本とも70年以上前から存在しておりこれまで神里地区で守り育てられたガジュマル群であり、地区のシンボリック存在となっている。

木学
MOKU-GAKU
No. 1沖縄の天然記念物の取扱い
—手続きと注意点—

おきなわの名木百選には、国や県、市町村の天然記念物がいくつか含まれています。これらの天然記念物は文化財保護法により厳重に守られており、採取や移動、形状の変更など現状を変える場合は、必ず現状変更申請し許可を得る必要があります。申請は国の場合、2か月前、県の場合は1か月前までに提出しなければなりません。無許可の行為は法律違反で罰則が科されることから、管理者は定期的に調査・監視を行い、不正行為の防止に努めています。そのため、天然記念物の取扱いについては、必要な手続きがあることに注意しなければなりません。

木学
MOKU-GAKU
No. 2県花デイゴと
県木リュウキュウマツの選定経緯

沖縄の県花デイゴは、1965年に「沖縄タイムス」などの呼びかけで県民投票が行われ、7万5千通以上の応募があり、約6万6千票の圧倒的支持を得ました。当時は沖縄の本土復帰前で県の制度はなかったものの、1966年の森林審議会でも正式に県花として認められました。

また、県木リュウキュウマツは、1966年の森林審議会でもいくつかの候補木の中から議論され、郷土特有で広く分布し経済価値が高いことが評価されました。琉球新報による県民投票も参考に、最も支持を集め最終的にリュウキュウマツが県木として決定されました。リュウキュウマツは古くから防風林として重要視され、国

や県の天然記念物に指定された名木もあります。両者は県民の強い支持と専門審議を経て現在まで沖縄の象徴的な花木となっています。



離島

Other Islands

of Okinawa

伊江村／伊平屋村／伊是名村／
久米島町／渡嘉敷村／座間味村／
粟国村／渡名喜村／南大東村／
北大東村／宮古島市／多良間村／
石垣市／竹富町／与那国町

Ie Village
Iheya Village
Izena Village
Kumejima Town
Tokashiki Village
Zamami Village
Aguni Village
Tonaki Village

Minamidaitō Village
Kitadaitō Village
Miyakojima City
Tarama Village
Ishigaki City
Taketomi Town
Yonaguni Town

The Guide of
Selected Famous Trees
in Okinawa

001

ねんとうひらまつ
念頭平松

樹種／リュウキュウマツ 伊平屋村田名 伊平屋村 国平成14年度

樹高 幹周 推定樹齢

8m 4.1m 300年



田畑が広がる田名集落の東部タンナ岳のふもとに生育する。四方に広がった樹形は容姿端麗で、その枝ぶりの美しさは「念頭平松の枝むちの美ら…」と琉歌にも歌われている。言い伝えによると、以前この場所には兄松と呼ばれる松が約500年前に植えられていたが、今から300年ほど前にある男がその兄松を盗伐して持ち帰ってしまった。その後、程なく男は松を盗った祟りで病気になるまで亡くなっ

てしまう。そのことを恐れた男の親類がおわびに植えたのが現在の念頭平松で、樹齢は300年余りになると言われている。久米島の「五枝の松」と共に沖縄の2大名松として知られる。

002

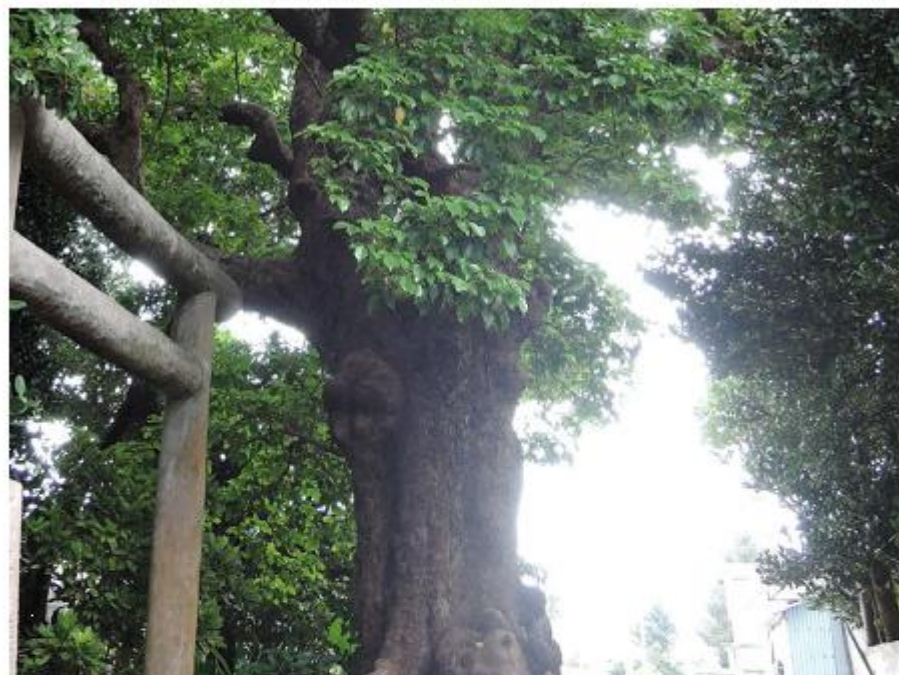
みねまうたきのあかぎ

嶺間御嶽のアカギ

樹種/アカギ ▶多良間村塩川50 自治会 国平成14年度

樹高 幹周 推定樹齢

13m 3.8m 不明年



嶺間御嶽の神木として御嶽の入口に生える巨木。当御嶽は「嶺間按司」を祭神とするが、この按司は530年ほど前の人で、現在あるアカギは御嶽建立の後に植栽されたものとされ、推定樹齢500年とも言われている。生育地が道路整備の対象となっていたが、長年地域住民から神木として扱われてきたため、一部は道路に入り込んでいるが、現況が保たれている。

003

たぶのき

タブノキ

樹種/タブノキ ▶伊江村東江上75 伊江村 国平成15年度

樹高 幹周 推定樹齢

10m 2.5m 100年以上



当タブノキは、去る大戦により焦土と化した伊江村に現存する貴重な古木のひとつである。当時、村内の樹木のほとんどが焼失したとされる中、この木も戦火により幹の途中が焼けたものの、萌芽により再生したものである。その名残は今も留められており、幹の中心部は地上1m弱の部位から2mほど

の長さにわたりえぐれて空洞化しているが、植物の持つ治癒力により回復し現在に至っており、生命力の強さを教示してくれる。伊江島の復興と時を同じくして緑を回復させた歴史の証人であり、その後の施設建設の際も保護された地域の歴史を刻んだ貴重な古木である。

004

にーばんがずいーまる

ニーバンガズィマール

樹種/ガジュマル ▶伊江村西江前194 個人 国平成18年度

樹高 幹周 推定樹齢

15m 2m 100年



太平洋戦争で、石川市(現うるま市石川)出身の佐次田秀順氏と宮崎県小林市出身の山口静雄氏の二人の日本兵は、敗戦を知らずに戦中、戦後の2年間(昭和20年4月～22年3月)、米軍の目を逃れて樹上生活を送ったガジュマルである。「ニーバンガズィマール」のニーバンとは、ガジュマルのある家の屋号である。屋敷林として、フクギと並ぶように生育している。

005 ガジュマル

がじゅまる

樹種/ガジュマル 伊江村東江上207 個人 国平成25年度

樹高 幹周 推定樹齢

13m 11m 300年



当該樹木は、伊江村東江上の民家に隣接する畑の中に生育している。民家が建築される前からこの場所に生育し、樹齢300年以上とも言われている。現在では樹高13m、幹周11mに生長し、枝は四方に広がり樹形は均整がとれていてどっしりしている。激戦地であった伊江島において、戦前から残る当

該樹木は貴重であり、所有者が戦火を逃れ疎開先から戻った際に辺り一面焼け野原の中、このガジュマルだけが残っていた、とのことである。ガジュマルは伊江村の村木でもあり、伊江村の指定天然記念物にも指定され、地域の人々により大切に保護管理されている。

006 フクギ

ふくぎ

樹種/フクギ 伊江村東江上338 個人 国平成25年度

樹高 幹周 推定樹齢

11m 2.7m 320年



樹齢320年と言われる当該樹木は、伊江島タッチューの南麓の集落内にある民家の一角に生育している。戦後、伊江島が復興する際にほとんどの樹木が材木にするため倒木されたが、この樹は、戦時中に無数の爆弾の破片が食い込んだと考えられ、材木として使用されなかった。その後、この樹木に沿うように所有者が住居をたて、屋敷林として保全されているとともに、地域の住民が大切に守ってきたことで、今も真っ直ぐ幹を伸ばし、力強く立っている。住居の塀を隔てて道路側から当該樹木を見ることができ、日常生活において、緑陰を提供しており、地域の人々の心の中に息づく樹木となっている。

007 伊是名小学校のガジュマル

いぜなしょうがっこうのがじゅまる

樹種/ガジュマル 伊是名村仲田1134 学校 国平成17年度

樹高 幹周 推定樹齢

6m 2.3m 74年



伊是名小学校の校庭内に生育するこのガジュマルは、昭和6年に現在地へ校舎を移した際、旧校地から移植されたと伝えられている。校舎の建て替えや体育館の新築などで様変わりした校内で、日陰を作り児童の遊び場となっている。卒業生には思い出をよみがえらせる伊是名小学校のシンボルと

なっている。

008 仲田みやらびの遊びどころ

なかだみやらびのあそびどころ

樹種/ガジュマル 伊是名村仲田144 自治会 国平成18年度

樹高 6m 幹周 2.6m 推定樹齢 200~300年



仲田区の中心にあり、「仲田はんたもの一本がじゅまるや、仲田みやらびの遊びどころ」と、子ども達が元気に木登りなどをして遊べるように、当時の住民が植栽したことが歌われている。どの集落にも樹木は多くあるが、朝夕の間に地域の人々が集まって話をしたり、子ども達の遊び場として親しまれている貴重な木である。

009 ガジュマル

がじゅまる

樹種/ガジュマル ▶伊是名村諸見421 自治会 国平成18年度

樹高 幹周 推定樹齢

6.7m 3.2m 100年



樹木は諸見区の外周に生育する。周辺は植栽当初、当区の集会所で拝所となっていた。この場所を塩害から守るための防潮林としてガジュマルの木が植栽されたと言われている。この場所は現在も区民の信仰の場所であり、敷地内には同等規模の樹木が左右に生育する。集落道路の整備で

樹木周辺の外観の造成が整えられたので、見違えた景観に様変わりした。また、このあたりは村の観光名所と隣接しているので、休日は地域の子どもの遊び場としてにぎわい、親しまれている。

010 仲田はんだものガジュマル並木

なかだはんだものガジュマルなみき

樹種/ガジュマル ▶伊是名村仲田135 自治会 国平成19年度

樹高 幹周 推定樹齢

8m 4.095m 150年



このガジュマル並木の元で、豊年祭の行事が興り、昔と変わらず子ども達が遊び、農作業の労を癒す人々に安らぎの場を提供しており、地域全体に緑の恩恵を与えている。また、台風時は防風林として地域の安全を守り、人々に親しまれている。

011 兼城のクワディーサー

かねぐすくのくわでいーさー

樹種/コバティシ ▶久米島町兼城183 自治会 国平成17年度

樹高 幹周 推定樹齢

10m 3.8m 250年



当コバティシは字兼城の公民館にあり、公民館建設以前からあったと言われている。まっすぐに伸びた幹からは地上2mあたりから四方に枝が伸び、全体にバランスのとれた美しい樹形をしている。住宅地の中にあり、地域の人が集う場所にあることから、日常生活において、また地域の行事の際に緑陰を提供しており、地域の人々の心の中に息づく樹木となっている。

012 儀間志良堂蔵のコバティシ

儀間志良堂蔵のコバティシ

樹種/コバティシ ▶久米島町儀間139 久米島町 国平成17年度

樹高 幹周 推定樹齢

10m 3.3m 108年



字儀間集落の道路に挟まれた広場に生育している。四方に枝を伸ばし葉を茂らせ、緑陰を提供している。旧暦6月25日のウマチーの日には志良堂蔵角力大会が開催され、地域住民のコミュニケーションの場を形成する樹木として、昔から愛されている。明治30年に宇久田安得氏が植樹したも

のを明治37年に現在の場所に移植したと記されており、歴史を語る古木である。

- 013 びろうぐんらく(くば・グソーバンタ) 樹高 幹周 推定樹齢
樹種/ピロウ群落 ↑渡嘉敷村阿波連194 自治会 国平成19年度 5m 0.8m 120年



渡嘉敷村字阿波連の青少年旅行村キャンプ場に生育している当ピロウ群落は、多様な樹形で230本の群落を形成し、島では昔からグソーバンタのクバと知られている。現在、このピロウ群落は渡嘉敷村の観光パンフレットなどにも掲載され、島民はもとより観光で訪れる多くの人々に親しまれている。

- 014 うるんのき 御殿(ウルン)の木 樹高 幹周 推定樹齢
樹種/アカテツ ↑座間味村阿嘉273 自治会 国平成17年度 13m 4.7m 400年



当樹木は小中学校前の畑の中にあり、村の文化財に指定されている。樹高13mで、こんもりと茂った樹冠は円形で美しい。また、アカテツとしては県内最大のものと考えられており、学術的にも貴重である。昭和の初め頃まで行われていた「種子取り」祭りのときには、この木のそばに「御殿」(方言でウ

ルン)と称する茅葺きの小屋を作っていた。今は畑仕事の合間に緑陰で休憩する地元の人の姿も見られる。現在も木の下にある拝所とともに大切にされ、地域のシンボルとなっている。

- 015 あまのあかぎ 阿真のアカギ 樹高 幹周 推定樹齢
樹種/アカギ ↑座間味村阿真1 自治会 国平成17年度 15m 7.5m 300年



当樹木は民家の中にあり、根株から萌芽したもので、3本の幹が直立している。枝は四方に伸びて美しい樹形を形作っている。樹高15mもの樹木が民家の中にある例は珍しく、家主や地域住民に大切に保護されている様子がうかがえる。アカギは成長が早く、沖縄県では街路樹として利用されることが多い。

- 016 がじまん ガジマン 樹高 幹周 推定樹齢
樹種/ガジュマル ↑粟国村東447 学校 国平成18年度 10m 6.5m 100年



粟国島では1945年4月1日の空襲で学校が焼け、校庭のガジュマルだけが残った。この木には「焼けずに残った戦前のガジュマル」と記された札が掲げられている。また、不発弾の殻が枝にかけられ、授業の開始・終了を告げる鐘として使われている。当樹木は現在の学校所在地に粟国尋常小学校が整備されて十数年後に植えられた。校庭にしっかりと根を張ったガジマンは、学校の様々な出来事を見守り、小中学校あわせて千名余の児童生徒を社会に送り出している。卒業生達は帰郷した際、学校を訪れて唯一残っているこのガジュマルを通して昔を偲ぶなど、貴重な樹木となっている。

017

となきばんしよとなきしょうちゅうがっこうあとのふくぎぐん

渡名喜番所渡名喜小中学校跡のフクギ群

樹種／フクギ(群) 所在地／渡名喜村渡名喜1935 指定／渡名喜村 国平成16年度



樹高 14m 幹周 1.7m 推定樹齢 200年

渡名喜島は台風被害を避けるため、路面より低い屋根やフクギの垣根、白砂の道路といった独特の集落風景が残っている。その集落内にあって、琉球王朝時代、農耕地と番所の境界線になるように植えたという由来を持つ当樹木は、樹高14mのものを筆頭に9本からなるフクギ群として地域住民や観光客を楽しませている。また、隣り合う木の葉が重なり合っているため、離れた場所から見ると、まるで1本の大きな樹木が枝を広げているようである。フクギは渡名喜村の村木でもあり、古の渡名喜島の風景を知っている当樹木は、この島の歴史を刻んだ貴重な樹木である。

018

しおやのまつなみき

塩屋の松並木

樹種／リュウキュウマツ並木 所在地／南大東村池之沢421-5 指定／南大東村 国平成19年度



樹高 12m 幹周 2.2m 推定樹齢 87年

琉歌で「塩屋松並ぬ枝持ちぬ美らさ島の美童ぬ身持ち美らさ」と歌われたこの塩屋の松並木は、大正9年(1920年)当時の大東製糖所長江崎龍雄氏が植林10ヶ年計画を立案して50万本もの植樹を完了させた功績の一部であり、風致林として高く評価されている。フロンティアロードとして観光ガイドブックなどに掲載され、南大東村の観光地となっている。

019

だいとうじんじやのびろうぐんらく

大東神社のビロウ群落

樹種／ダイウビロウ群落 所在地／南大東村池之沢234 指定／南大東村 国平成19年度



樹高 9m 幹周 0.7m 推定樹齢 87年

大東神社のビロウ群落は、南大東島がまだ無人島であった頃からそびえ立つ大群落である。大東諸島は1900年から八丈島の開拓団により開拓が始まった。八丈島からの移住者は民間信仰の根強い島であったことから、住民の信仰心は厚く、開拓着手後まもなく神社が建てられた。この大東神社は大神宮とも呼ばれ、参拝者も多い。毎年9月には例祭日として神輿(かみおこし)、山車(だし)、仮装行列、相撲、演劇などの奉納行事が行われ、村の最大行事である。

020

なかののびろうはやし

中野のビロウ林

樹種／ビロウ群落 所在地／北大東村中野 指定／北大東村 国平成19年度



樹高 8~12m 幹周 0.7~0.8m 推定樹齢 100~150年

南大東島と同じく、北大東島も八丈島の開拓団により開拓(北大東島は1903年に開拓着手)されたが、無人島時代から生育している天然のビロウ群落で、推定樹齢は200年とされている。ダイウビロウは沖縄本島のビロウより樹高が高く、開拓時代は良質の建材として村外に移出されていた。中野のビロウ林は当時はまだ小さく、建材として利用できなかったため、伐採をまねがれて現在に至っている。樹形はそれぞれ通直にそろう、見事な美林を形成している。北大東村では当群落を昭和51年に村の天然記念物に指定し、大切に保護管理している。

021 あばらぎのガジュマル

あばらぎのガジュマル

樹種/ガジュマル ▶宮古島市西里399-1 不明 国平成14年度

樹高 幹周 推定樹齢

12m 6.3m 不明年



宮古島市の中心地にある居酒屋「あばら樹」の隣に生えていて、店のPRにも一役買っているようである。以前はフクギなどの巨木も隣接して生えていたが、今は無く、このガジュマルは、子供たちの遊び場となっている。地上1.8mの高さから幹が分かれ、枝葉は17～23mも広がっている。

022 カアニザ御嶽のリュウキュウマツ

かあにざうたきのりゅうきゅうまつ

樹種/リュウキュウマツ ▶宮古島市野原231 自治会 国平成15年度

樹高 幹周 推定樹齢

15m 2.5m 280年



野原集落は、旧平良市の久松集落からの移民で、1716年に移り住んだとされている。カアニザ御嶽は久松集落に所在するカアニザ御嶽の分身と言われ、アサティダ・シマティダの2神が祀られている。当樹木はその頃植樹されたとの言い伝えがある。樹高は15mと、周辺の樹木から抜きで

ように高くそびえ立ち、枝を2段に広げ枝葉を傘状に展開する姿は、壮年のリュウキュウマツの美しさを見事に現している。また、御嶽では豊稔、生活の安寧、健康祈願等の祭事が行われ、地域と密接に関わっており、当樹木も御嶽とともに大切な存在として崇め守られている。

023 真中屋御嶽のアコウ

まんなかやうたきのあこう

樹種/アコウ ▶宮古島市上地99 宮古島市 国平成15年度

樹高 幹周 推定樹齢

8m 6.1m 500年



上地集落の南に位置する真中屋御嶽に生育しており、御嶽の周辺は宅地に囲まれている。このアコウの木は、根元部分に、500年以前の頃のものと思われる古墳を抱き抱えていることから、「古墳を抱くアコウ」と呼ばれ、市の天然記念物に指定されている。古墳を抱き鎮座する姿は力強く、見る者に悠久の歴史を感じさせるものがある。墓(古墳)をつくった当時の人の知恵で、墓が風雨に耐えるためアコウの木を植えたと考えられる。現在は、横の広場で地域住民がゲートボールを楽しむ姿も見られ、安らぎや憩いの場となっている。

024 ヤソルブソガイギ

やそるぶそがいぎ

樹種/ガジュマル ▶宮古島市伊良部字伊良部19 宮古島市 国平成18年度

樹高 11m 幹周 7m 推定樹齢 70年



当樹木が生育する場所は、幹線道路沿いの小さな御嶽(ダキフ井御嶽)にあり、地元の人々の御嶽として長年愛されてきた。「ヤソルブソガイギ」という名前は、「1反の広さに広がった木」という意味である。約45年前の道路拡張に伴い、道路側にはみ出た枝を切り落としたため現在は1反の広さはないが、複雑に絡み合い支え合うガジュマルの奇妙さは変わらず威容を誇っている。

025 うるかじんじんのいすのき 砂川神社のイスノキ

樹種/イスノキ ▶宮古島市城辺字砂川 自治会 国平成23年度



樹高 6m 幹周 1.2/2.6m 推定 樹齢 100年以上

この樹木は、宮古島市城辺の砂川集落にある「砂川(うるか)神社」の境内に生育している。また神社では、旧暦の8月15日、十五夜の満月の日に、宮古全域に古くから引き継がれてきた野外の集団円陣舞踊である「クイチャー」や二百年前から集落に伝わる「伝統の獅子舞」が神社に奉納され、五穀豊穡を祈願する豊年祭が行われている。この他の祭事では、旧暦3月3日には海の神に感謝して魚を奉る祭事等も行われている。このような由緒ある神社に鎮座する樹木として、長年の間地域住民から崇められている樹木である。

026 ともりのはすのはぎり 友利のハスノハギリ

樹種/ハスノハギリ ▶宮古島市城辺字友利605-4 自治会 国平成23年度



樹高 9m 幹周 6.4m 推定 樹齢 100年以上

当該樹木は、宮古島市城辺友利の御嶽に隣接する地に生育している。ハスノハギリの周辺の土地は、地元住民の憩いの場となっており、宮古一周道路に面し、インギヤーマリンガーデンの近くにあることから、人目に触れる場所にある。当該樹木は、幹周りが6.4m、直径2mと太く、宮古島内では最大級のハスノハギリと思われる。その巨大な姿から樹木の生命力を感じさせ、力強く広がる枝の緑陰は、道行く人々に一服の休息と清涼感を与えてくれる。

027 んたはるうがんのあかぎ 土原拝所のあかぎ

樹種/アカギ ▶多良間村仲節 自治会 国平成18年度



樹高 幹周 推定樹齢

12m 3.6m 300年

当樹木は多良間島の八月踊りの祭場であり、300年にわたり島の伝統文化・芸能を見守っている。八月踊りは旧暦の8月に催され、起源は明らかになっていないが、「8月お願」、「皆納税」と称されることから、かなり古い歴史があると考えられている。1600年代に宮古、八重山に実施された納税制度によって苦しみを味わった人々は、旧暦の7月までに皆納し、旧暦8月には「8月お願」と称して納税の報告をし、さらに豊年を祈念することを年中行事とした。神前で奉納踊りをし、住民が共に喜び、納税の苦しみを慰めあったものと思われる。

028 しゅれーうがんのあかぎ しゅれー拝所のあかぎ

樹種/アカギ ▶多良間村仲節 自治会 国平成18年度



樹高 幹周 推定樹齢

10m 3m 150年

このしゅれーうがんは、「スツウブナカ」(豊年祭)の「キダリ」の日(三日目のおわり日)には祭事が行なわれ、字民の信仰も厚いウガンである。このうがんに、樹齢200年のアカギがあり、人目をひいている。このような大木は、村落の周辺にある御嶽や拝所にしか見られないので特に目立っ

ている。アカギの付近には、100年余を超すフクギもあり、フクギを含めて天然記念物として貴重な存在である。また、しっかりと岩を抱いて立っており、人々の憩いの場所になっている。

029 うんぐすくたきのふくぎ
運城御嶽のふくぎ
 樹種/フクギ ▶多良間村仲筋 自治会 国平成18年度

樹高 幹周 推定樹齢
 8m 2.2m 400年



本御嶽は、300年前に創始されたと伝えられ、入り口の鳥居を入ると幅2～3mの参道が約40m続き御嶽内にはフクギの大木が多数生育している。本御嶽は、多良間島潜在自然植生を思わせる植物相であり、成長の遅いフクギが多数生育し、学術的に貴重な御嶽植物群落となっている。1年に8回行われる祭事、神事を見守り、聖域を保護している。

031 ふてんまうたきのやろう
普天間御嶽のやろう
 樹種/テリハボク ▶多良間村塩川 自治会 国平成18年度

樹高 幹周 推定樹齢
 10m 2.1m 200年



島の東南に位置し、海岸植物として琉球蓮の葉桐やテリハボクのめだつ森の中に普天間御嶽がある。船守の神として祭られ船舶の航海安全、とりわけ旅立ちをする人々が祈願をする。祭事を始めた年代は明らかではないが200年余以前からはじめられていると考えられる。昔、沖縄本島で権現を信

仰した人が、航海中風波のために漂流し多良間島に流れついて助かった。自分が助かったのは、日頃信心している普天間権現のお加護だと海岸近くに祠を建て、権現を遙拝した。その後村人も旅神として祭るようになった。

030 びとうまたうがんのふくぎ
びとうまた拝所のふくぎ
 樹種/フクギ ▶多良間村塩川 自治会 国平成18年度

樹高 幹周 推定樹齢
 8m 2.2m 300年



どしりと大地に立ち、多良間島の八月踊りの祭場にあり、三百年にわたり島の文化、伝統芸能を見守り続けている。

032 ういね一つづのふくぎ
ういね一つづのフクギ
 樹種/フクギ ▶多良間村仲筋 自治会 国平成19年度

樹高 幹周 推定樹齢
 12m 2.2m 350年



「ういね一つづのフクギ」は、地域の信仰の場である土原拝所に生育しており、枝ぶりも良く道行く人々の目をひいている。拝所一帯は島の英雄である土原豊見親の生誕の地であると伝えられている。

033 みんなうたきのふくぎ 水納御嶽のフクギ

樹種/フクギ ▶多良間村水納 自治会 国平成19年度

樹高 幹周 推定樹齢

12m 1.7m 300年



水納島の水納御嶽に生育し、年に数回行われる祭事、神事を見守り、聖域を保護している。水納御嶽は水納集落の北方の小高い丘にあり、15世紀後半に水納島を統治したミンナペーユヌスを祭る。島のすべての年中行事の中心で、島の繁栄や航海安全などを祈る場所である。



034 なかどうのさんばんあこう 仲道の三番アコウ

樹種/オオバアコウ ▶石垣市登野城636-2 石垣市 国平成14年度

樹高 13m 幹周 5.4m 推定樹齢 200~250年

「仲道道(なかどうみち)から七けえら通うけ…」と歌われる八重山の代表的叙情歌「とらばらーま」ゆかりの地にあり、地元では「三番アコウ」と呼ばれている。この三番アコウの生育する登野城区には以前まで一番アコウ、二番アコウがあったが枯死し、現在は三番アコウのみが現存している。これらのアコウは、昔は道しるべや行商人の憩いの場として親しまれた。現在は旧暦8月に行われるとらばらーま大会の前夜祭が樹下で開催され、歌を刻んだ歌碑が建立されている。地域の人に守られ、葉を約20mも広げ、大きな緑陰をつくり出している。



035 まいつばうたきのおおばあこう 真乙姥(まいつば)御嶽のオオバアコウ

樹種/オオバアコウ ▶石垣市新川252 石垣市 国平成15年度

樹高 10m 幹周 10.5m 推定樹齢 200~300年



オオバアコウが生育する真乙姥御嶽は、1500年代に石垣島で行われた王府(中山)軍と地元オヤケアカハチとの戦いで、中山軍に協力した真乙姥(長田大主の妹)の祈願の功績により、当時の尚真王から神職を与えられ、没後の墓を御嶽としたもので、八重山の歴史と深く関わる場所である。樹下では旧暦の6月に豊年祭の豊穰祈願や奉納行事が行われており、当樹木は神聖な木として人々から崇められている。また、当樹木の幹には、確認できないほどに下垂した気根が絡み合い、その姿は奇怪であるとともに、畏敬の念も感じる。市の巨樹・巨木として「石垣市緑の戸籍簿」にも登録されている。

036 しらほしょうがっこうのおおばあこう 白保小学校のオオバアコウ

樹種/オオバアコウ ▶石垣市白保73-1 石垣市 国平成23年度

樹高 8.05m 幹周 3.56m 推定樹齢 100年以上



白保小学校は、明治23年に簡易小学校として設置された、創立121周年の歴史と伝統を持つ学校である。同校内には、「アコウ」「ガジュマル」「デイゴ」の三本の巨樹が並立して生育しており、地域では通称「三本木」と呼び親しんでいる。当該樹木は、去った大戦前から生育する三本木のひとつとして、子供達の成長とともに生育し、幹周りは3.56m(直径1.1m)と太く、枝は傘状に拡がり、その樹形は均整がとれている。白保小学校は、年中花と緑のある学校として、平成12年に全日本学校関係緑化コンクール準特選に選ばれており、このような緑化環境の中、当該オオバアコウは、適切に管理がなされ、小学校のシンボルとして、大切にされ続けている。

037

しらほしょうがっこうのがじゅまる

白保小学校のガジュマル

樹種/ガジュマル ▶石垣市白保73-1 石垣市 国平成23年度



樹高 9.25m 幹周 3.55m 推定 樹齢 100年以上

白保小学校は、明治23年に簡易小学校として設置された、創立121周年の歴史と伝統を持つ学校である。同校内には、「アコウ」「ガジュマル」「デイゴ」の三本の巨樹が並立して生育しており、地域では通称「三本木」と呼び親しんでいる。当該樹木は、去った大戦前から生育する三本木のひとつとして、子供達の成長とともに生育し、幹周りは3.55m(直径1.1m)と太く、枝は四方に拡がり、その樹形は均整がとれている。白保小学校は、年中花と緑のある学校として、平成12年に全日本学校関係緑化コンクール準特選に選ばれており、このような緑化環境の中、当該ガジュマルは、適切に管理がなされ、小学校のシンボルとして、大切にされ続けている。

038

しらほしょうがっこうのデイゴ

白保小学校のデイゴ

樹種/デイゴ ▶石垣市白保73-1 石垣市 国平成23年度



樹高 9.25m 幹周 3.64m 推定 樹齢 100年以上

白保小学校は、明治23年に簡易小学校として設置された、創立121周年の歴史と伝統を持つ学校である。同校内には、「アコウ」「ガジュマル」「デイゴ」の三本の巨樹が並立して生育しており、地域では通称「三本木」と呼び親しんでいる。当該樹木は、去った大戦前から生育する三本木のひとつとして、子供達の成長とともに生育し、幹周りは3.64m(直径1.1m)と太く、枝は四方に拡がり、その樹形は均整がとれている。白保小学校は、年中花と緑のある学校として、平成12年に全日本学校関係緑化コンクール準特選に選ばれており、このような緑化環境の中、当該デイゴは、適切に管理がなされ、小学校のシンボルとして、大切にされ続けている。

039

ひらくぼのやえやましたん

平久保のヤエヤマシタン

樹種/ヤエヤマシタン ▶石垣市平久保 石垣市 国平成25年度

樹高 幹周

推定樹齢

15m 2.3/2.0m 170年



平久保集落東北方の山裾に、2本のヤエヤマシタン(八重山紫檀)が生えている。ヤエヤマシタンは、中国南部、インドから東南アジアまで広く分布しているが、国内では石垣島のみで自生しており、昭和47年(1972)5月15日の本土復帰と同時に国の天然記念物に指定された。かつて、ヤエヤマシタンは、島の各地に多く生育していたが、木肌が美しく、光沢があることなどから家具材として、また建築用材として使われ、乱伐されて、その数が急激に少なくなり、絶滅が心配されている。ヤエヤマシタンが山地に自生している風景が見られるのは、今では、平久保と最近確認された野底のみとなっている。幾年もの台風や干ばつ等の自然災害に耐え、乱伐されずに生育してきた巨木であり、定期的な下刈りを行うなどして、石垣市教育委員会が保護している。

040

なかまがわのさきしますおうのき

仲間川のサキシマスオウノキ

樹種/サキシマスオウノキ ▶竹富町南風見国有林173林道い小艇 石垣県森林管理署 国平成15年度

樹高 23.9m 幹周 3.8m 推定 樹齢 400年



当サキシマスオウノキは、西表島東部を流れる仲間川の中流部の川岸に生育する。西表島は、イリオモテヤマネコやカンムリワシに代表される稀少動物の生息地で、自然豊かな動植物の宝庫であることから、年間約30万人の観光客が来島する。当名木はマングローブ見学とあわせて川上り観光として、西表島の特徴的な環境を体験できるスポットである。当樹木は樹高23.9m、板根の高さは最高3.6mあり、県内に生育する同種の中では最大級であり、日本一である。サキシマスオウノキの板根は、重硬なため、かつては船の舵として利用されていたが、現在では観光の対象となり、地域・経済振興の役割も果たしている樹木である。

041 はてるまじまうぎきのはましたん 波照間島毛原崎のハマシタン

樹種/ミズガンビ ↑竹富町波照間毛原 西竹富町 国平成16年度

樹高 幹周 推定樹齢
3.5m 2m 300年

当樹木は地域でハマシタンと呼ばれるミズガンビで波照間島西海岸の隆起サンゴ礁石灰岩上に生育している。一帯は20本前後のミズガンビが群生している場所である。通常、ミズガンビは岩を這うように生えるが、当樹木のように直立した巨木は非常に珍しい。また、同樹種は地元で「スパンコッチ」とよばれ、水分が少なく生木のままでよく燃え、火力が強く火持ちがよいことから、かつては燃料用の薪として用いられるなど、地域の人々の生活に欠かせない樹種であった。台風や冬の北風が吹きすさぶ決してよくない環境にありながら300年余生育してきたその姿に力強い生命力を感じる。

042 かまどまのくばでさ カマドマのクバデサ

樹種/モモタマナ ↑竹富町舟浮 西竹富町 国平成25年度

樹高 幹周 推定樹齢
12.8m 2.6m 160年

船浮村は、西表島の西側にあり、陸続きでありながら、船でしか渡ることができない陸の孤島と言われている。干立、祖納と並ぶ古い集落であり、人口50名ほどの小さな集落は、天然の良港と讃えられる船浮湾に面する小じんまりとした佇まいである。船浮の歴史は古く、民謡「殿様節」の舞台でもある。「殿様節」とは、船浮村にいたカマドマという絶世の美女と、祖納から村に通っていた役人との恋を歌った民謡である。カマドマは、この碑の横にあるクバデサ(モモタマナ)の木の下で、愛する殿様をひざが痛くなるまで待ちつづけたという。当該樹木は、このクバデサの木であり、船浮港に隣接するかまどま広場に生育している。幾年もの台風や干ばつなどの自然災害に耐えてきた巨木であり、「殿様節」ゆかりの木として地域で大切に管理・保護されている。

043 たぶのろうばく タブの老木

樹種/タブノキ ↑竹富町西表492 西個人 国平成25年度

樹高 幹周 推定樹齢
13.5m 4.3m 240年

祖納の歴史を見つめてきたタブの老木である。中国大陸から鉄を持ち込み、鍛冶を始めた大竹祖納堂儀佐(おおたけそのどうぎさ)を祀る大竹御嶽の境内にあるご神木である。大竹御嶽の一帯は、クバの群生になっているが、その中に一本だけタブの老木がそそり立っており、集落の高台にありながら、長年に渡る風雨に耐え、まさに老樹の風格を漂わせている。この一帯は、旧集落の中心でもあった。現集落の中心から、旧道を上った山の手位置し、このタブの老木をはじめ、木々がうっそうと繁り、大竹御嶽のような神聖な場所を見守り続けている。現在、竹富町が天然記念物に指定し、解説板やコンクリート柱を設置し、定期的な下刈りを行うなどして保護している。※当該樹木は近くで見ることができませんが、その奥の区域は拝所となっており、現地保全のため、拝所への立入についてはご遠慮頂いております。

044 いりおもてしょうちゅうがっこうのせんだん 西表小中学校のセンダン

樹種/センダン ↑竹富町西表869 西竹富町 国平成26年度

樹高 幹周 推定樹齢
10.5m 2.92m 110年

西表小中学校の校庭に所在するセンダンの古木。学校の創立からしばらくして植栽され、その樹齢は110年以上になると言われている。大きく手を広げたような枝張りが校庭にほどよい影をつくり、風通し抜群の木の下は児童が集まる憩いの場となっている。学校の卒業生で作られた「センダンの会」

や記念誌のタイトル「センダン」に代表されるように、当該小中学校では事あるごとにセンダンの名称が用いられ、学校のシンボルとして親しまれている。児童生徒や卒業生である地域の方々、教職員の思い出の詰まった樹木である。

045

どなんたぎのおおばあこ

ドゥナンタギのオオバアコウ

樹種 / オオバアコウ ▶ 与那国町与那国3984-1 国平成14年度



樹高 15m 幹周 10.3m 推定樹齢 150年

地元で「ドゥナンタギノアグ」と呼ばれている。樹高10m、幹周り10m余、枝張り25mに達する巨木で、地上高5.5mから四方八方に枝を伸ばし、枝葉を繁茂させており、堂々と立つその姿は圧巻である。根は幾筋にも縦裂し、見る人の目を引きつける特異な形状を呈している。また、年に数回(不定期)、いっせいに落葉し、いっせいに新芽を出す姿から生命力の強さを感じることができる。与那国島で最大の樹木であり、同樹種としては県内でも最大と推定される。

木学

MOKU-GAKU

No. 3

今も昔も大活躍
フクギの魅力

フクギは、古くから集落の屋敷林や畑の防風林として植えられてきました。隣接木どうしの根が絡みあって強風にも持ち堪えられ、葉っぱは肉質で厚みがあるため潮風にも強く、また火災にあっても燃えにくい防火林としての役割も果たしてきました。

材は、やや通直で強度もあり建築用材としても利用され、樹皮は現在でも紅型に欠かせない鮮やかな黄色や橙色に染め上げる染料として使われています。

夏には黄色の実を着け、日中は鳥たちの日が暮れるとオオコウモリ達の採餌場となります。一般的には食用として利用されませんが、煮詰

めてジャムにすることができるようです。

かつての、集落景観を形成していたフクギ並木や屋敷林が完全な形で残されているところは少なくなりましたが、わずかに渡名喜村や本部町備瀬、今帰仁村今泊などに残っており、今では、フクギは、観光資源としても県内外から訪れる人々を魅了しています。



おきなわの名木百選ガイドブック

The Guide of Selected Famous Trees in Okinawa

発行： 沖縄県環境部環境再生課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2 行政棟4階
TEL：098-866-2064
メール：aa021100@pref.okinawa.lg.jp

制作： 光文堂コミュニケーションズ株式会社